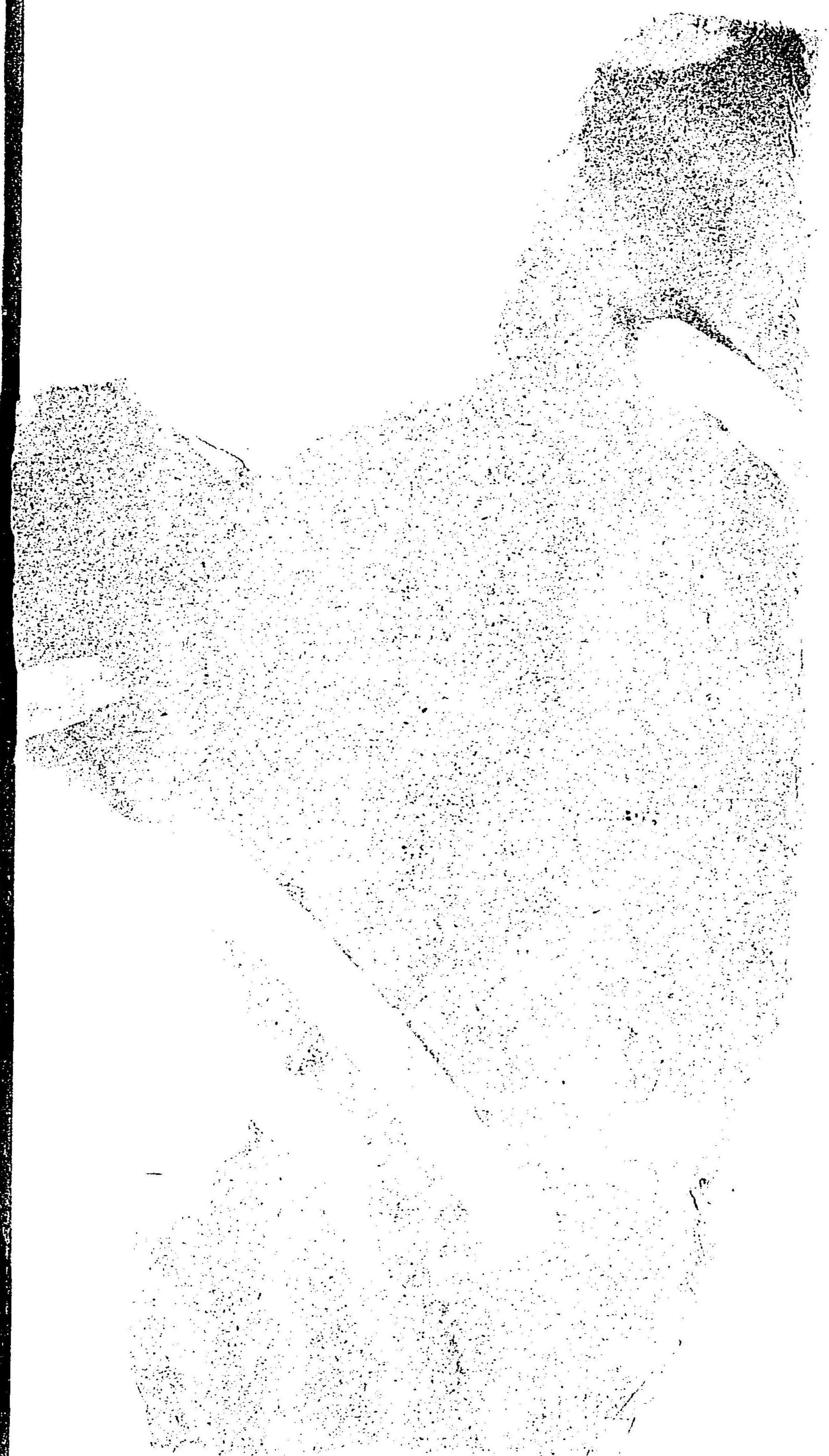


御料牧場沿革誌

41

丁總御料牧場沿革誌



序

夫れ牧畜は。社會須要の事業にして。其盛衰ハ。國運の消長に關す。然るに我邦近時百般の事業。大に振興すと雖も。牧畜事業に至りては。尙萎靡として振ハす。此れ余の常に慨あるところなり。今や下總御料牧場。獨立維持の方法已に驗あるを以て。此編を印刷し。以て同志に示す。但し將來益改良進歩を圖り。我邦牧畜事業に裨補するところあらんと期す。敢て自ら足れりとし。吾の事畢るとなすに非ず。覽者之を諒して可なり。

明治廿七年二月

主馬頭 子爵藤波言忠

641.7
No. 413 X

序

大政維新以來社會百般の事物大に面目を改め就中軍制の整備交通運輸の事農耕の事及日常生活上の需用品にして牧畜事業と相待つもの擧て數ふ可からず隨て本邦舊來の牧畜事業を改良し其進歩發達を促し各般の需用に應ずるの必要あるを以て明治八年故大久保内務卿地を下總の舊牧地に定め優良なる種畜を輸致し斯業に堪能なる外人を延聘して茲に牧畜事業を開られたり是れを下總御料牧場の創始となす當時内務省に於て之を管し尋て農商務省に移し明治十八年に至り 帝室の御料に採取せらるる是に於て當牧場の事業に専ら本邦牧畜法の模範として國費を以て經營施設したる舊時の方針を株守すへきにあらざるを以て明治廿一年以來主として其事業を整理し獨立維持の方法を確立せんことを企圖し或は從來の經歷に考へ或

は泰西の牧畜法を斟酌し煩を去り冗を省き務めて簡約を旨とし覃思經營すること數年幸に當初の計畫悉く實效を奏し今や全く獨立維持の方法を悠久に確立するを得て將來専ら力を進歩擴張に致すを得るの域に達し牧場事業茲に一段落ヲ爲せり回顧すれハ牧場創始以來約二十年其間百般の施設計畫は是れ事業上の試験となり進歩の段階となり今日の成績を觀るを得るに至らしめたる所以にして記述せざるへあらず曩に主馬頭の命に因り其沿革及既往施設の經歷を尋繹調査し遂に此冊子を成せり乃ち下總御料牧場沿革誌と題し當牧場の爲めに力を盡されたる諸君に頒ち併せて世の斯業に志あるものに質さんと欲す印刷に付するに臨み聊々本書編纂の事由を卷端に書する此の如し

明治廿七年二月

下總御料牧場長

新山莊輔 識

凡例

- 一 本誌ハ往古下總御料牧場馬牧ノ起原及明治八年以降全廿六年ニ至ル牧畜耕耘樹林等事業ノ沿革成績ヲ集録ス
- 一 本誌ヲ分テ第一期第二期第三期第四期トス第一期ニハ往昔馬牧開始ノ事明治維新ノ後チ牧地開墾會社ヘ付與ノ事第二期ニハ明治八年牧羊場種畜場開設勸業ノ事第三期ニハ宮内省ニ附屬御料局主管中ノ事第四期ニハ主馬寮轉轄後チ經濟自立ノ事ヲ録ス
- 一 每期冒頭ニ牧場全般ニ關スルコトヲ記シ其後チニ牧畜耕耘樹林等ニ部類チ分チ掲載ス
- 一 本誌計表様式ハ閱覽シ易キヲ主トシ可成的一定ノ表式ニ據リ第二第三第四期中ノ事實ヲ彼此比照スルニ便ナルヲ謀レリ
- 一 本誌ハ舊記又ハ口碑或ハ記憶ニ質シテ之ヲ編成シ又其編纂殊ニ急ヲ告ケ精査ニ違アラス故ニ遺漏若クハ計表等誤リナキヲ保シ難シ且二三期中ノ事實ニ於テ之ヲ徵スヘキ書類ナキモノハ總テ掲載セサルモ假令ハ賣拂ノ物件ニシテ數量明確シ代價不分明ナルモノハ其代價ヲ除キ數量ノミヲ掲ケタルモ

ノアリ

一 本誌ハ務メテ文辭ヲ平易ニシ讀者ノ便ニ供セリト雖凡或ハ字句妥當チ欠キ
順序其宜シキヲ得ス体裁隨テ備ハラサルモノ多カラシク讀者幸ニ諒セヨ

明治廿七年一月

編者識

下總御料牧場沿革誌目次

第一期

總說

第二期

總說

育羊之部

育馬之部

育牛之部

養豚之部

耕耘之部

樹林之部

人員之部

經濟之部

第三期

總說

育羊之部

育馬之部

育牛之部

養豚之部

耕耘之部

樹林之部

人員之部

經濟之部

第四期

總說

育馬之部

育牛之部

御料乳牛之部

育羊之部

養豚之部

衛生之部

耕耘之部

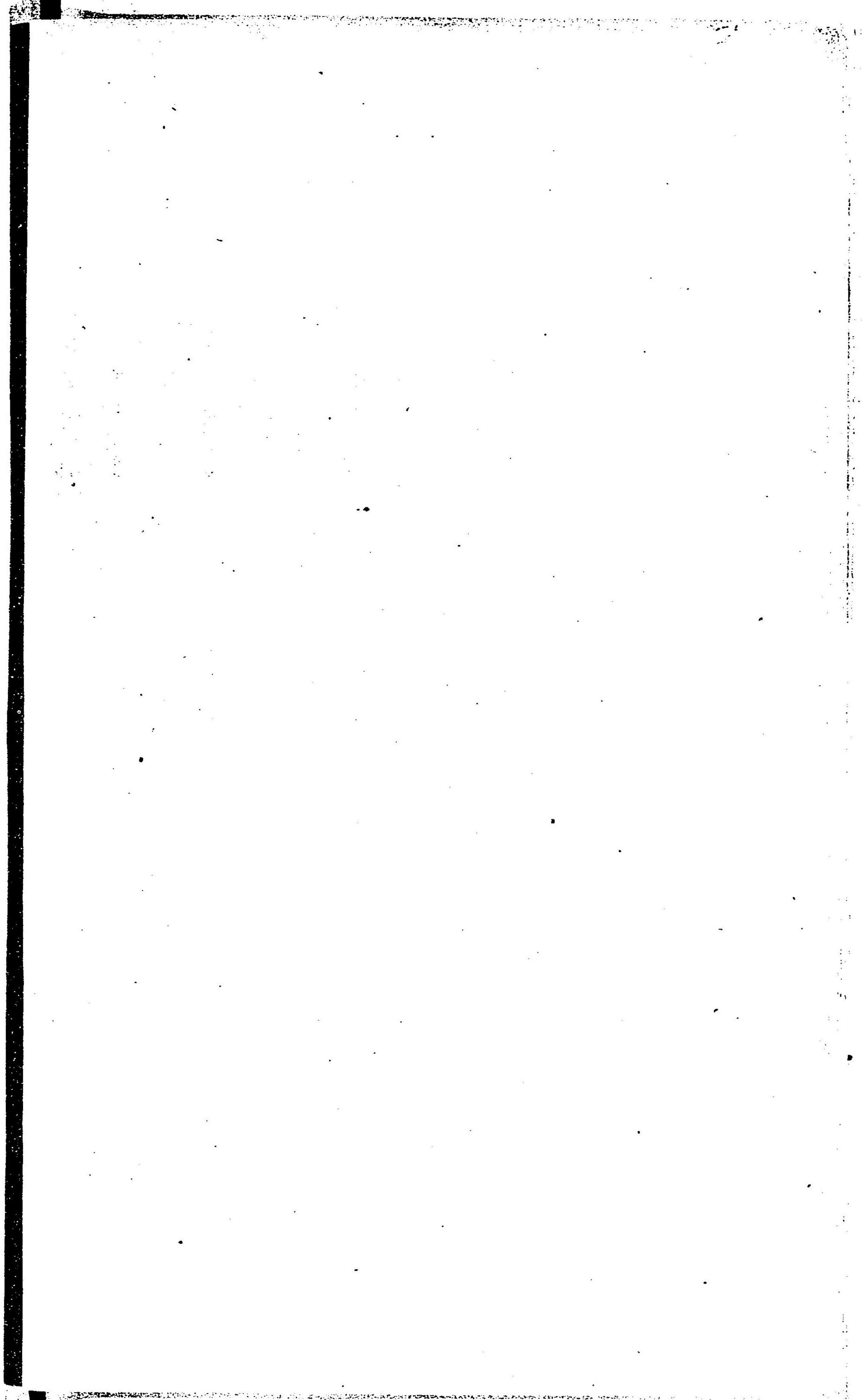
樹林之部

家屋土堤築造及樹根掘採之部

人員之部

障礙及困難之部

經濟之部



下總御料牧場沿革誌

第一期

總說



往昔下總牧場ノ起原ハ畏クモ文武天皇ノ御宇ニ當リ創開セラレタリト之ヲ口碑ニ傳フレ其徵証スヘキモノナク邈焉トシテ知ルニ由ナシ中古天正年間北條氏政千葉之介邦胤ニ命シ馬牧ヲ監督セシム後チ北條家敗レテ千葉家亦從テ亡ヒタルヨリ徳川氏ノ所管ニ歸シ慶長十九年以降時ノ奉行代官若シクハ領守之ヲ支配シ終ニ堀田備中守ニ傳ハリ明治維新ノ際民部省ノ所屬ニ歸セリ

本場ハ元ト上總下總ノ二國ニ跨リ之ヲ總稱シテ千葉野ト唱ヘ後寛永年中堀田加賀守佐倉領守トナリタル故ヲ以テ佐倉野ト改稱ス

牧馬ハ終年放飼自由交接シテ野ニ生産シ其長スルモノヲ毎歲秋季吏員派出捕獲シ駿馬ハ之ヲ獻納シ又監督者ニ贈リ或ハ糶賣ニ付シ皆臂部ニ鉄印ヲ烙シ其剩レルモノハ再ヒ放ツテ定例トス放馬ノ區域ハ七箇所ニシテ内野牧高野牧柳澤牧取香牧矢作牧小間子牧油田牧トス即チ佐倉七牧ト稱スルモノ是ナリ

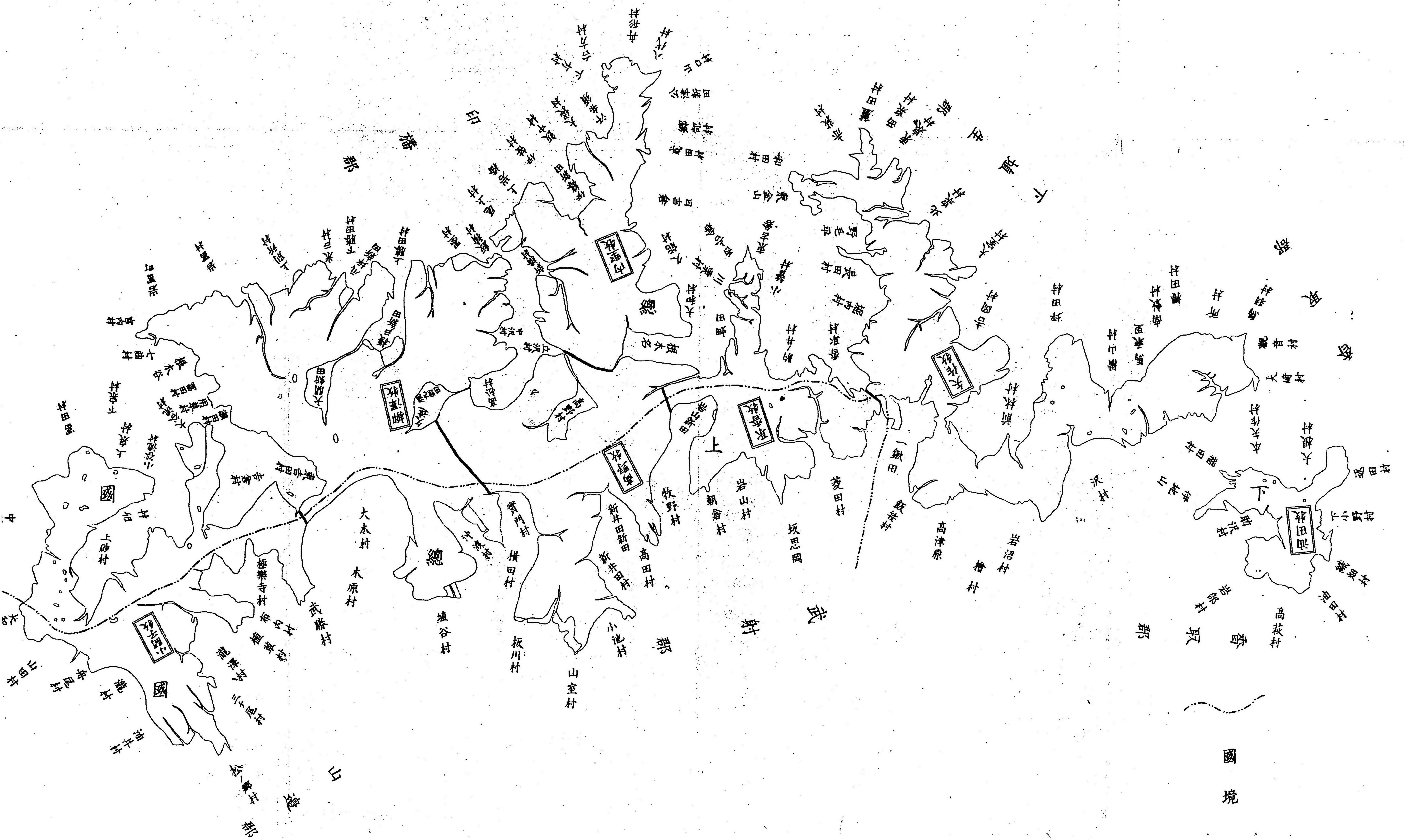
元祿十三年ノ調査ニ依レハ牧馬千百十九頭天保弘化ノ交ハ更ニ蕃殖シテ三千五

百六十八頭ノ多キニ至レリ明治維新ノ際ハ追々牧馬ヲ賣却シ其數非常ニ減少セ
●リト云而シテ牧馬ヲ直接管理セシムル爲メ牧士ナル者ヲ置キ天正以來寛政三
年迄貳百十有餘年間牧士四人全四年牧馬ノ數漸ク多キヲ加ヘタルヨリ牧士四拾
人ヲ増置シ各所ニ散在シ專ラ管理ノ任ニ當ラシメタリ

明治三年高野内野柳澤矢作油田ノ五牧ニ蕃殖スル所ノ野馬ハ悉ク之ヲ取香牧ヘ
驅集シ小間子牧ヲ合セテ六牧ハ民部省開墾部ニ於テ東京府下無藉無産ノ窮民ヲ
此地ニ移住セシメ且府下商人數名ヲシテ開墾會社ヲ結ハセ牧地ヲ附與シ專ラ開
墾ノ業ヲ起サシメ獨リ取香牧ノミ依然之ヲ存セリ

明治五年取香牧ハ馬疫流行シ斃死スルモノ其數五拾六頭ノ多キニ達シタリ此時
ニ當リ豫防救治ノ方ヲ施シタルハ勿論健馬ハ之ヲ賣拂或ハ之ヲ牧場付近農家ヘ
預托セルヲ以テ殘馬ハ僅カニ二百十二頭ノ少キニ至レリ

牧馬ノ種類ハ元來内國種ヲ以テ交接蕃殖セシモノナリト雖正天正年間以降ハ時
ノ支配者最モ駿逸ナル牡馬ヲ撰ミ之ヲ放子種徳川秀忠公ノ時先代家康公ノ乘馬和蘭陀
ニ由ナシ專ラ蕃殖ニ力ヲ盡シタルモ素ヨリ經年ノ久シキ同一血族ノ蕃殖ニ係ハ
ルヲ以テ骨格漸次劣リ其丈ケ矮少ニシテ僅カニ四尺三四寸ニ過キス隨テ體質モ



國境

香取郡

武射郡

郡

總

大木村
水原村

山

海

郡

郡

下

生

橋

郡

山

海

中

大

亦泰西牧馬ニ及ハサルヲ遠キヲ以テ竟ニ明治八年新ニ牧場ヲ創設セラレ、ニ至
レリ

佐倉七牧ハ元ト上總下總ノ兩國ニ跨ル一大馬牧地タリ而シテ古書ニ就キ其場所
ヲ全圖ヲ探グルルハ左ノ如クニシテ當時ノ實況ヲ知ルニ足ルト雖モ製圖ノ年代
ヲ知ルニ由ナシ

第二期

總說

本場ハ往古上總下總ノ二國ニ跨ル荒廢淒涼ノ馬牧タリ明治八年九月故參議兼內務卿大久保利通上請シ創テ茲ニ牧場ヲ開設シ廣ク海外ニ其種ノ牛馬羊ヲ求メ種畜改良ノ基礎ヲ立テ泰西農器ノ使用ヲ開キ以テ混同農事ノ摸範ヲ示シ我國牧畜耕耘ノ事業ヲシテ倍々改進スル所アラシメントス而シテ開場ノ始メニ當リ牧場ヲ二大別シ一ヲ取香種畜場目今ノ三里ト稱ス即チ千葉縣下總國下埴生郡ニ屬シ地積千三百二十三町二反八畝廿步主トシテ牛馬ヲ豢養シ傍ヲ開墾ノ事業ヲ行フ一ヲ牧羊場トス其位置ハ全國印旛下埴生ノ兩郡ニ亘リ全地積二千九百八町五畝廿一步西ハ海岸ヲ距ル七里南ハ上總ニ連リ東南ハ矢立浦ヲ距ル凡ソ五里西北ニ印旛沼アリ東京ヲ距ル陸路十七里余氣候ハ東京ト大同小異極暑平均華氏寒暖計八十九度極寒三十二度地形大約平坦土質黑壤松林所々ニ散立シ灌木葎草到處ニ繁茂ス四望蔓延實ニ渺茫曠漠ノ原野ナリ

明治八年五月牧羊開業取調掛ヲ置キ假事務所ヲ東京內藤新宿勸業寮試驗場目今內藤新宿料第一御內へ設ケ牧羊開業ノ事務ヲ掌理シ勸業權助岩山敬義ヲ長官トナシ外屬僚

九名米國牧羊家「アイダブリューアツプジョンス」ヲ備ヒ總計十一人牧羊開業取調掛ヲ命ス此年八月米國人「ドクトルエツチレーサム」ヲ備フテ「ジョンス」ノ補助トス明治八年六月勸業權助岩山敬義屬僚九名雇外國人「ジョンス」ヲ率キテ取香牧及ヒ元馬牧地并ニ茨城枋木兩縣下ノ原野ヲ巡檢シ歸京ノ後本場ハ牧地ニ最モ適當ナルヲ以テ牧羊場トナサン「コチ」内務卿ニ稟告シ臨場査定アラントテ請フ

明治八年九月故參議兼內務卿大久保利通勸業權頭河瀬秀治勸業權助岩山敬義外屬僚及雇外國人「ジョンス」ヲ率キテ牧場ニ充ツヘキ土地ノ全面ヲ巡檢セラレ取香牧ハ將來牛馬改良ノ地トシ十倉七榮十倉三ノ三ヶ村内ヲ買入牧羊場ニ充テ事務廳ヲ字兩國ニ建築スル「コチ」決定セリ尋テ全脚本場ノ位置ヲトセラハニ當リ兩テシヲ以テ今標木ヲ建テ牧羊場ハ全地ヲ別ツテ六區トス第一第二第三第四ハ印旛郡富里村大字十倉ニ屬シ第五ハ全郡全村大字七榮ニ屬シ第六ハ下埴生郡遠山村大字十倉三ニ屬ス而シテ岩山權助ヲ場長トナシ廳舎ヲ字兩國ニ設置シテ場内一切ノ事務ヲ總括シ其他各區ニ取締所ヲ設ケ牧監壹人雇二人ヲ置キ區内ノ事務ヲ管理セシメタリ

取香牧ハ下埴生郡遠山村大字駒井野村明治十年四月地租改正ニ際シ屬ノ町ニ屬

シ官有ノ馬牧地ニシテ從來ノ牧士之ヲ管理セリ明治八年九月牧羊場開設ニ當リ取香種畜場ト稱シ牛馬ノ改良ヲ謀リ種畜ヲ蕃殖シテ各府縣ノ請求ニ應シ之ヲ貸與セントシ大ニ事業ヲ擴張ス而シテ岩山勸業權助ヲ場長トナシ該場一切ノ事ヲ督セシム本場ハ牧羊場ト異ナリ外國人ノ關係ヲ受ケス專ラ岩山場長ノ擔任セル所ナリ

明治八年九月道路ノ開鑿土堤ノ築造家屋ノ建築ヲ始メ百般ノ事業頗ル繁雜ヲ極メタリ家屋建築ノ位置ハ卑低濕潤ノ地ヲ避ケ都テ高燥ニシテ多クハ樹林ヲ後背ニ控ヘ各家屋ハ適當ノ距離ヲ隔テ其方向ハ必ス北ヲ后トシ南ニ面シ后地ハ樹林ニ據リ或ハ土堤ヲ築キ強風ヲ防キ寒威ヲ防歇ス抑モ本場ハ高燥渺茫タル曠原ニシテ風力ヲ遮斷スル樹木ニ乏シク就中東西南ノ風威最モ激烈ニシテ或ハ家屋ヲ轉覆スルノ恐アルノミナラス本場ノ如キ絶テ一粒ノ石礫ヲ見ナク建築基石ノ如キハ遠ク東京茨城縣下ヨリ輸入ヲ仰カサルヲ得サルヲ以テ其構造ハ廳舍官舎ヲ除キ他ハ大約堀建柱トナシ根入ハ三尺余之ニ柳ヲ組ミ以テ建設セリ場中土堤ノ巨大ナル者ハ數三間^{高九尺}在來野馬放牧區域ノ分ナリ小ナルモノハ數六尺^{高六尺}牧場創業以來新設スルモノニシテ其趣意タル緬羊ヲ放牧スルニハ牧夫必ス之ヲ監守シ善良ノ牧

野ニ誘導スレド牛馬ニ至ツテハ之ヲ自由ニ放飼スルガ故ニ牧場區域ヲ驗ヘテ民間ノ田圃ヲ害スルノ憂アルカ爲メ土堤ヲ以テ放牧場ヲ區畫ス道路ノ廣キハ幅員八間狭キハ四間トシ平坦ニシテ直線ナル位置ヲ撰ミ其兩側ニ樹木ヲ植付行旅者ノ便ニセリ而シテ場中流水ノ便ナク悉ク井水ニ依リ以テ人畜ノ飲料用ニ供ス其深キモノハ六十尺以上トス

明治八年十一月牧羊場字兩國并ニ取香種畜場ニ於テ初メテ開墾ニ着手セリ最初開墾ノ方法ヲ牛耕ニ決ス依テ牡牛百數十頭及ヒ運搬用牝馬二十頭ヲ購求シ牛ハ舉丸ヲ截斷シテ割牛トナシ牛軛壹個ニ耕牛二頭ノ比準ニシテ三軛ヲ壹組トナシ都テ十八頭ヲ三組ニ立テ略動作ニ馴ル、ヲ以テ壹挺ノ犁ニ六軛ヲ繫キ之ヲ二組ニ分チ十二頭ニ農夫五人ヲ付シテ之ヲ用ユ然ルニ九年一月ノ始ヨリ耕牛ノ中牛疫即チ^{リンドル}ペスト^トヲ發シ累々斃死スルモノ四十八頭而シテノ感染セシ六十七頭ハ盡ク撲殺シ斃死ヲ合セテ百拾五頭ニ及ヒ僅々廿九頭ヲ存セリ因テ斷然牛耕ヲ廢シ現在ノ人力ヲ以テ僅ニ耕鋤ノ業ヲ續クヲ得タリ全年三月與州ヨリ蕃殖用及ヒ農用ノ爲メニ購求スル所ノ牝馬三百五十余頭ノ中ヲ以テ更ニ馬耕ニ代ヘ前業ヲ再興ス但馬耕ノ牛耕ヨリ駛捷ナルヲ殆ント一倍ノ益アルヲ以テ爾來開墾ノ方

明治八年五月米國牧羊家「デーダブリユーアツブジョンズ」ヲ八年六月間雇入牧羊場ニ在テ專ラ牧羊ノ業ヲ傳ヘシメ又全年八月全國人「ドクトルエッチレーサム」ヲ二ヶ年間雇入「ジョンズ」ノ補助トナシ全十年九月英國人「リチャルドケエー」ヲ五ヶ年間雇入現業手傳人ト爲シ傍ラ牧羊生徒ヲ教育シ續ヒテ獸醫生徒ヲ養成セリ「ジョンズ」ハ十二年四月「レーサム」ハ十年八月「ケエー」ハ十四年二月解約ス

明治九年十一月清國緬羊購求ノ爲メ全國ヘ派遣セシ屬官貳名及ヒ「ジョンズ」等羊各種一千三百余頭ヲ牽キテ歸朝ス全十年五月米國産メリノ一種五百余頭全十一年四月中蒙古地方ヨリ支那羊九百九十余頭及ヒ全年十一月中濠州メリノ一羊一千三百九十余頭全十三年六月米國ヨリメリノ一種七百二十頭ヲ購求ス

明治十年五月米國ヨリ乘用種牝牡馬八頭乘車用牝牡馬二頭農用驢牡一頭合セテ拾一頭ヲ輸入ス此際羣尾ノ期ナルヲ以テ直チニ在來ノ牝馬肥大強壯ノモノヲ撰ビ之ニ配シ漸次蕃殖ノ目的ヲ立テタリ

明治九年六月中洋種牝牛四頭無角種牝牛壹頭合五頭全十年六月中短角種牝牡牛十五頭「デボン」種牝牡牛八頭「ゼルシー」種牝牡牛五頭合セテ廿八頭ヲ米國ヨリ購求

輸入シ春情アルモノハ直チニ交接セシメテ漸次蕃殖ノ目的ヲ立テタリ明治十年牛馬羊購求ノ爲メ場員與青輔等米國ヘ出張ノ時全國カリホルニア州人「ペーカイ」氏我政府牧羊開業ノ美譽ニ感佩シ聊カ微意ヲ表セント雇「ジョンズ」ヲ以テメリノ一羊種二十二頭ヲ獻納ス政府報酬トシテ大和錦二卷ヲ贈與ス全氏在桑港我領事ニ由テ其恩賜ヲ謝ス

明治九年三月横濱ニ於テ種豚英國産「パークシャイアー」種牝牡拾九頭ヲ購求シ大ニ蕃殖ヲ謀リタルモ全族交尾ナルカ故ニ自然骨格矮少ニ傾キ頗ル卑陋ノ體格トナリ十八年二月中英國種牝牡貳頭ヲ購求シテ漸次良種ヲ増殖セントス

創業以來明治九年ニ至リ諸般ノ事業既ニ緒ニ就キタルモ素ヨリ本場ノ如キ四隣廣豁ニシテ猛獸ノ棲息スル地ナク他ニ恐ルベキ外患ナシト雖モ近傍野犬ノ多キ昔年馬牧タリシ馬ノ犬害ニ係ル頗ル多シト夫レ犬ノ羊ニ於ケル之ヲ敵視シ之ヲ嗜食スルハ自然ノ性ニ出テ本年秋季綿羊輸着ニ先タチ之カ豫防ノ方策ヲ設ケサレハ到底牧羊ノ目的ヲ達スル能ハサルヲ以テ牧羊場ヲ距ル四里以内ノ町村ニ於テ野犬獲殺及ヒ銃殺ノ規則ヲ設ケ又明治十年五月場内ニ於テ野犬ノ防害并耕

地鳥類豫防ノ爲メ威銃ヲ備ヘ專ラ驅除捕獲ノ方法ヲ設ケタリ

明治十二年四月中嚮ニ牧羊開業ノ目途アル各府縣ヨリ徵集セル生徒五十四名ハ牧羊ノ方法及ヒ牛馬豚ノ管理泰西農器ノ用法ヲ講習シ既ニ三年ノ學期ヲ闋シ卒業セルヲ以テ咸ク歸郷ス明治八年開業以來患畜ハ雇外國人或ハ陸軍獸醫ニ依頼シテ之レカ治療及ヒ管理ノ方法ヲ設クルト雖モ多數ノ動物ニ對シ獨リ獸醫ニ乏シク大ニ遺憾トセリ明治十一年一月始メテ獸醫ヲ雇フテ本場ニ獸醫ノ一科ヲ置キ鬪場動物ノ健康ヲ保全シ病畜ノ治療ヲ施行セシメ傍ヲ各府縣ヨリ依頼ノ生徒ニ速成獸醫學術及ヒ實業ヲ教授セシム全十三年ニ至リ學制ヲ設ケ益教育ノ道ヲ擴充シ爾來此業日ニ進ミ十五年ニ至リテ生徒ノ人員四十名ノ多キニ達シタリ然シテ本科ノ如キ其治療ノ實業ニ至リテハ教育ノ道毫モ欠クルナキモ或ハ學理ヲ研究スルニ至リテハ遺憾ナキ能ハス茲ニ於テ本科ヲ駒場農學校ニ附屬シ學理實業兩ツナカラ全カラシメンコトヲ要シ十五年二月全校ヘ引渡シ益教育ノ道ヲ擴張セリ

明治十三年一月中牧羊場及ヒ取香種畜場ノ總反別四千貳百三十一町三段四畝十一步ヲ合併シ更ニ下總種畜場ト改稱シ場内ヲ分テ七區別トス尋テ各區ノ名稱ヲ舊來區地ノ字名ニ改ム即チ第一ヲ兩國區第二ヲ山室區第三ヲ猪ノ頭區第四ヲ金

堀區第五ヲ獅々穴區第六ヲ駒之頭區トシ更ニ取香一場ヲ三里塚區トス而シテ本場ヲ兩國區内高堀ニ移シ事業ノ緩急ヲ謀リ牧夫百九十八人ヲ以テ定員トシ牧畜耕耘一切ノ事ニ使役シ益々牛馬羊ノ良種ヲ蕃殖シ各府縣ノ請求ニ應シテ之ヲ貸與シ逐次全國ノ種畜ヲ改良セシムルノ目途ニ出ツルモノナリ
舊來ノ野產馬ハ開業以前既ニ取香牧ニ驅集シアルモ絶テ改良ノ道ナク本場開設ニ臨ミ改良ノ途漸ク開ケ洋種牡馬ヲ以テ雜種ヲ得或ハ老衰蕃殖用ニ供シ難キモノハ漸次競賣ニ付スル等大ニ改良ニ力ヲ盡セリ然ルニ該馬種タル体格矮少脆弱ニシテ之レカ改良ヲ謀ル甚タ遲緩ナルヲ以テ逐次之ヲ廢止セントセリ
明治十三年四月事業ノ進歩ニ隨ヒ費用ヲ省ク爲メ山室區ヲ猪ノ頭區ニ金堀區ヲ兩國區ニ合併シ場内ヲ總テ五區トス
場長岩山敬義ハ開業以降續テ牧場ニ在リシニ明治十三年三月歸京ヲ命セラレ農務局ニ奉仕シテ專ラ本場ノ事務ヲ幹ス全十六年五月牧場在勤波多野尹政場長ニ補セラレ全十八年六月宮内省ニ轉任ス
本場ハ元馬牧ナリシヲ明治三年中東京府下ノ究民ヲ移シ牧馬ヲ廢シ殖民地トナシ全牧地(元取香牧ヲ除ク)ヲ開墾會社ヘ下付セラレシヨリ所々散在スル立木ヲ伐採シ當

場開業ノ際立木凡五万八千七百本ヲ買入レシモ廣漠タル原野以テ動物ノ寒暑ヲ避ケ又防風ノ便トナスニ足ラス爾后逐年林地ヲ撰ミ明治十八年六月ニ至ル十一ケ年間各地ニ栽植セシ樹木無慮百四万三千二百九十六本ノ多キニ達セリ

明治十四年四月農商務省ヲ置カレテヨリ内務省ノ所轄ヲ離レ農務局ノ管理スル所トナル

明治十四年六月種畜改良ノ景況并ニ泰西馬耕式 天覽可被爲在旨仰出サレ全月三十日 御臨幸獅々穴區兩國區三里塚區ニ於テ親シク事業ノ景況ヲ叡覽全日成田行在所へ還幸成ラセ給ヘリ翌十五年六月再ヒ 御乘馬ニテ 行幸被遊旨被仰出全月七日 御臨幸駒ノ頭區三里塚區ニ於テ事業ノ景況ヲ 叡覽全日成田行在所へ還御被爲在タリ以上行幸ニ付 天覽ニ供シ奉タルハ牛馬羊放牧ノ景況馬術ノ乘御護羊犬使用各種農機ノ運用競馬野馬追込ノ狀況及捕馬術等ナリキ

明治十五年 御臨幸ノ時駒ノ頭區駒ノ頭前荒蕪地開拓ノ景況ヲ 天覽ニ供シ其御野立所ニ櫻樹ヲ栽植シ紀念トセリ今猶存シテ之ヲ 御幸櫻ト稱ス

明治十四年八月猪之頭區字己ノ口段別百町歩ヲ究民授産地トシテ千葉縣へ拂渡シ全十五年二月獅々穴區段別三百四十三町二反九畝十一歩全年十月兩國區字金

堀反別二百七十町貳反五畝八歩ハ牧場事業漸ク整頓スルニ從ヒ之ヲ民業ニ移スト雖モ牧畜耕耘ノ事業ハ依然之ヲ繼續スル事トセリ創業以來拂下タル地積七百十三町五反四畝十九歩ナリトス

明治八年創業以來最モ災害ノ激烈ナリシモノハ風害ニシテ年々歳々兩三回ノ被害ハ免カル、トナシ其風位ハ西南又ハ東南ヨリ起リ猛烈ノ風雨トナリ家屋ヲ顛覆シ人畜ノ死傷耕作物ノ損害ニシテ其數一々枚舉スルニ遑アラズ就中明治十三年十月四日被害ノ概況ヲ舉クレハ全日午前第一時頃ヨリ西南ノ暴風雨トナリ家屋ノ顛倒三十棟壓死者二人負傷者三十四人緬羊五十五頭ヲ壓死セリ此他耕地山林等ノ被害モ亦劇シク其慘況實ニ名狀スベカラス

明治十年十一月本場内字兩國ニ成田分署交番所ヲ設ケ巡查四人ヲ置キ闔場ノ安寧ヲ謀レリ殊ニ渺茫タル曠原人跡影ヲ絶チ旅行者ハ屢々慄掠ニ遭遇セルヲ以テ警察上大ニ取締ヲ嚴ニセリ後十一年十一月交番所ヲ廢シ警察分署ヲ字兩國ニ開設シ佐倉警察署兩國分署ト稱セリ而シテ牧場ニ於テハ増員巡查費五人分ヲ補給シ都合巡查十名警部一人ヲ置キ日夜警察區域ヲ巡行シ非常ヲ警戒セリ十二年一月字三里塚ニ交番所ヲ設ケ巡查二名ヲ交代巡邏セシメタリ

明治十八年六月本場ノ儀ハ 思召ノ次第モ有之宮内省へ土地動物其他器械類共其儘引繼キ皇宮地附屬地ニ編入ノ儀大政官へ上請全月十八日ヲ以テ聞届ケラル因テ土地并ニ建家動物其他共本場附屬ノ物品悉ク宮内省へ引渡ヲ了リタルハ實ニ全月廿七日ナリキ

育羊之部

牧羊ノ事タル萬民衣食住三者ノ二要ヲ兼テ人生須臾モ缺クヘカラサルモノタリ然ルニ開港以來追年絨布ノ需要漸ク増加シ多額ノ國幣ヲ費シテ輸入ヲ海外ニ仰キ普ク人民ノ需用ニ充ツルハ到底行フ能ハサルノミナラス國家經濟上亦默視スベカラス曩ニ文部省岩山敬義等ヲ歐米諸州ニ派遣シ專ラ開墾牧畜ノ事業ニ就キ實地調査セシメ歸朝ノ後漸次是等ノ事業ヲ興サント謀ルニ際シ適々米國人「デ」
「ダブリユ」
「アツブジヨンス」
「建白ノ旨アリテ内務省之ヲ嘉納スル所トナリ明治

八年故大久保内務卿上請ノ上裁可ヲ得テ創メテ茲ニ一大牧場ヲ開キ海外良好ノ種畜ヲ索メ畜産改良蕃殖ノ方法ヲ施シ其増殖スルニ從ヒ各地方へ配布シテ大ニ該業ヲ興起隆盛ナラシメントセリ米國人「ジヨンス」ハ元牧羊ノ業ニ志篤ク夙ニ本邦ニ來リ關東地方ヲ經歷シ氣候地味等ヲ熟視シ殊ニ牧羊ノ術ニ精シク牧畜開業ノ爲メ專ラ盡力セルヲ以テ全人ヲ雇入牧羊開業ノ事ヲ擔當セシメタリ起業ノ年期ハ八年六ヶ月ト定メ此開墾費及ヒ緬羊購求其他外國人雇費牧夫給費等ノ金額五十三万六千六百六十九圓トス而シテ滿期ニ至リ收入スル羊毛及ヒ剝羊拂下代共金七十万六千三百圓ナリ之ニ開墾地并ニ建家農馬拂下ルルハ金十一万五千三百七十五圓合シテ金八十二万六千六百七十五圓ヲ得内金十四萬千二百六十九圓ヲ起業中緬羊斃死其外諸費十分ノニヲ減スルモノト見積及ヒ支出金五十三万千六百六十九圓ヲ引去リ金十四萬八千七百四十六圓ノ純益アリ此ノ十分ノ三即チ金四萬四千六百二十三圓八十錢ヲ「ジヨンス」ハ與ヘ金十萬四千二百二十二圓二十錢ヲ政府ノ益金トナスノ組織ナリキ

牧羊ハ本邦未嘗有ノ業ニシテ一タビ其歩ヲ誤レハ亦再起スヘカラス其將來ニ關係ヲ有スル實ニ厚シトナス故ニ委員ヲ撰マサレハ能ク其目的ヲ達スルヲ得ス而

シテ「ジョンズ」ハ元牧羊ノ事ニ精シク且勉勵能ク其任ニ耐ユ可キヲ以テ該業一切ノ事ヲ總括シ雇期ハ八年六ヶ月ト定メ一ヶ月金五百圓ヲ與ヘ亦勸業寮ヨリ人撰シタル生徒五十名ニ牧羊ノ事ヲ教授セシムル等都テ廿壹ヶ條ヲ命令セリ

牧羊開業方法收支豫算調書寫

年 度	出 費	收 入
前壹ヶ年半	金十萬五千五圓	
初 年	金貳拾萬八千四百拾貳圓	
二 年	金四萬七千拾貳圓	金壹萬二千七百五十圓
三 年	金四萬五千六百六十九圓	金四萬四千四百五十圓
四 年	金四萬五千六百六十九圓	金五萬千七百五十圓
五 年	金貳萬六千六百二十四圓	金拾二萬二千圓
六 年	金貳萬六千六百二十四圓	金十五萬五百圓
七 年	金二萬六千六百二十四圓	金三拾貳萬四千八百五十圓
總 計	金五十三萬千六百六十九圓	金七十萬六千三百圓

收入高

一金七拾萬六千三百圓

内

金拾四萬千二百六拾圓

諸收入高ノ内牧羊死失其外諸費十分ノ二ヲ減ト見積

差引

金五拾六萬五千四拾圓

外

金拾壹萬五千三百七十五圓

但開墾地建家農具拂代

小以金六十八萬四百十五圓

内

金五拾三萬千六百六十九圓

出費

差引純益

金拾四萬八千七百四拾六圓

内

金四万四千六百貳拾三圓八拾錢

純益金十分ノ三
給與金

十八

差引

金殘金拾万四千百廿二圓貳拾錢

政府益金

以上出費收入内譯書ハ略ス

明治九年十一月始メテ濠州支那地方ヨリ蒙古羊上海羊山羊ノ三種ヲ輸入シ尋テ
西班牙メリノ種サウスダオン種長種メリノ種リンコルン種等開業以來總テ
十種ヲ牽入即チ左表ノ如ク十三年六月マテ合計五千二百八十八頭米國清國及東
京新宿試験場等ヨリ購求セリ

緬羊牽入

九 年	年 次		支 那 種	サ ウ ス ダ オ ン 種	リ ン コ ル ン 種	小 計
	牝	牡				
九 年	九	九	一、三、七	三	三	一、七、一
	四、九	九	一、三、七	三	三	一、七、一

合 計 三 ヶ 年	十 三 年		十 年	
	牝	牡	牝	牡
二、六、〇〇	一、四、七	七、〇〇	一、八、五二	一、二、八
二、四、三〇	二、四	五、四	一、〇、五二	三、三
五、四	二、四	二、四	五、四	三、三
三、三	一、〇	七、〇〇	一、〇	一、六〇
五、〇、九七	一、九一	七、〇〇	二、九五六	一、六〇

備考

羊ハ米國并ニ清國及ヒ東京ヨリ輸入セシモノニシテ其購買ノ代價不詳ナルヲ以テ記入セス
メリノ種ハ米國産ニシテ「スパニシメリノ」
「シリシヤンメリノ」ヲ併記ス
支那種ハ蒙古、上海、山羊ノ三種ヲ併記ス
サウスダオン種ハソルブルダオン種ヲ併記ス

而シテ其頭數ヨリ漸次蕃殖一萬千三百四十余頭ヲ產出ス其年別種類ヲ區別スル

并ハ左ノ如シ

綿羊生産

年次	九年		十年		十一年		十二年		十三年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
メリノ種				三、	四、	三、	一八、	三七、	五三、	七五、
支那種	六九、	八三、			二四、	二六、	三七、			
サウスダ オリ ン コ ロ ン 種					三、	四、	一八、	三三、	一五、	二、
雜種					六二、	五八、	一、		二一、	二〇、
小計	六九、	八三、		一五四、	一五九、	六二、	五八、	一、	二一、	二〇、
				一六三、	一六三、	三八六、	三六五、	一一四、	六九六、	七七六、

合計十ヶ年	十八年		十七年		十六年		十五年		十四年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
	四七六、	四三五、	五八五、	六二七、	五九四、	五七七、	四二五、	六三九、	七一八、	七〇九、
								一〇四、		
			六、	五、	三、	三、	四、	五、	二、	四、
	四二五、	四二二、	六六、	五五、	三〇、	一九、	四六、	三〇、	三八、	三四、
	五二一、	四七七、	六五七、	六八七、	六二七、	五九九、	四七五、	七七八、	七五八、	七四七、
	五、	六、								
	四六二、	四一五、	四四、	三、						
	四三〇、	四四六、	五七三、	六六五、						

備考

メリノ種支那種等種類ノ總稱ハ綿羊牽入表中備考ト全シ

十五年		十四年		十三年		十二年		十一年		十年		九年	
牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
六七四	五四〇	四九四	四〇一	一九六	二〇七	二六八	二二七	八三	二二			八	六
				一		三	一			二			
三	二	二	一	二	六	三六	一六	二					
						二	四	一	四				
二〇		一〇	五	六八	一五	八八七	三四〇	三三三	五八	三九三	一五七	一四二	七八
								二		六	一		
六九七	五四二	五〇六	四〇七	二七	三二	一一九六	四八八	四〇一	七五	四〇一	一五八	一五〇	八四

合計十ヶ年	十八年		十七年		十六年		
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	
牝 二七一九	牡 二、五二	牝 一八〇	牡 二〇五	牝 三七六	牡 二九三	牝 四四〇	牡 三六一
六	一						
五八	三二	一	三三	一	一	一一	二
三	八						
一、八九六	六七四	一六	四	二〇	一五	二七	二
八	一						
四、九九〇	二、八六七	一九七	二二二	三九七	三〇八	四七八	三六五

備考

斃死ノ原因ハ肺寄生蟲胃蟲肝臟病等最モ多ク而シテ撲殺セシモノ多少アルモ其頭數詳ナラズ

前表ノ如ク斃死ノ頭數頗ル多キヲ以テ十二年十二月ニ至リ永遠蕃殖ノ見込ナキ上海蒙古羊百九十九頭其他メリノ一種ニシテ骨格不良ノモノヲ漸次屠殺シ其肉ヲ製造シテ罐藏スルノ方法ヲ設ケ爾來年々罐詰トナシタルモ十八年ニ至リ之ヲ

廢止ス今其屠殺及賣却ノ頭類ヲ掲クレハ左ノ如シ

綿羊屠殺及ヒ賣却頭數

年次	十年		十二年		十三年		十四年		十五年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
メリノ一種										
支那種										
サウスタオン種										
雜種										
小計										
計	五	五	三七	三七	一七八	一七八	六	六	四六一	四六一

合計八ヶ年	十八年		十七年		十六年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡
牝 一、二二六	牡 八九二	牝 二二	牡 二二九	牝 一三三	牡 七三三	牝 八八
牝 一八三	牡 三三					
牝 一三九八	牡 九三七	牝 二二	牡 二二九	牝 一三三	牡 七三三	牝 八八

備考

牝羊ノ内へ割羊八百九十二頭ヲ併記ス
 賣却ノ代價ハ一々詳ナラサルモノ多キニヨリ記載セス
 賣却ハ專ラ鐘詰用トシテ屠殺シ又十五年中獅々穴區并金堀拂下ノ際賣渡
 シタルモノ多シ當時實際賣却ノ代價ハ種牡一頭金四拾圓ヨリ參拾五圓マ
 テ牝拾圓割四圓五拾錢此他現品ノ良否ニヨリ差異アリ

緬羊一日飼料ノ分量ハ十五年中左ノ如シ
 緬羊飼養分量

種類	大麥	燕麥	玉蜀黍	穀	燕苔甘薯 馬鈴薯蘿蔔	鹽	乾草
牝滿一才以上	壹合		壹合	壹合	二百二十目ヨリ 二百四十目迄	八才	三百六十目ヨリ 四百八十目迄
牝滿一才未滿	壹合			壹合	二百四十目	八才	三百六十目ヨリ 四百八十目迄
種牡交尾中 及其前後	貳合	貳合		貳合	貳百四十目	八才	全
舍飼牝分娩後	壹合		壹合	三合	六百目	八才	全

備考

本表飼料ハ強壯ノモノニ與フル分量ナルヲ以テ羊群ノ景況ニ應シ穀菜ヲ
 交換シ其分量ヲ増減ス

牧夫ハ一ヶ年牡羊百頭ニ付一人其他各種羊ハ貳百頭ニ付一人ヲ付ス

其飼料ヲ十五年十二月ノ相場ニ照シ費額ヲ積算スレハ左ノ如シ

緬羊飼料費

種類	一日一頭飼料費	一ヶ月一頭飼料費	一ヶ年一頭飼料費
----	---------	----------	----------

分舍 媿飼 後牝	種牝 及其 前後 中	牝滿 一才 未滿	牝滿 一才 以上
貳錢四厘壹毛四	貳錢八毛貳四	壹錢貳厘八毛七八	壹錢五厘壹毛
七拾貳錢四厘貳毛	六拾貳錢四厘七毛貳	三拾八錢六厘三毛四	四拾五錢參厘
八圓八拾壹錢壹厘壹毛	七圓六拾錢〇七毛六	四圓七十錢四毛七	五圓五拾壹錢貳厘

備考

本表飼料算出ノ相場ハ大麥、玉蜀黍、燕麥ハ壹石ニ付金貳圓貳拾貳錢貳厘、穀
壹石ニ付金壹圓貳拾八錢廿諸、蕪菁拾貫目ニ付拾八錢、鹽一升ニ付三錢貳厘
乾草拾貫目ニ付拾錢一ヶ月ハ三十日一ヶ年ハ三百六十五日トス以下皆之
ニ倣フ

緬羊ハ毛ノ收量ヲ以テ畜養費ノ經濟ヲ立ツルヲ目的トス今十六年剪毛ノ收量及
ヒ其頭數ヲ左ニ掲ク

剪毛收量

剪毛頭數	剪毛總收量	平均一頭剪毛
參千五百十頭	壹萬四千三百四十壹磅八分五厘	四磅五分五厘貳九

備考

當時壹磅ノ實價ハ金貳拾七錢貳厘八毛ニシテ之ヲ一頭剪毛四磅五分五厘
貳九ニ算出スレハ金壹圓貳拾四錢貳厘トス即チ一頭一ヶ年ノ收入金ナリ
犬ノ羊ニ於ケル之ヲ敵視シ之ヲ嗜食シ或ハ搜索以テ傷害ヲ逞フスルハ其天性ニ
出ルモノナリ明治九年十一月緬羊輸入ニ先チ嚴密豫防ノ方法ヲ設ケ其害ヲ除カ
ザレハ牧業ヲ暢達スル能ハサルノミナラス全國普及ノ進路ヲ遮斷スルヲ以テ牧
場四隣四里以内ノ町村ニ於テ野犬獲殺及ヒ銃殺ノ規則ヲ制定シ以テ發布セリ其
獲殺セシ者ヘ距離遠近ニヨリ一頭ニ付手數料金二十五錢以内瘞埋料金七錢ヲ給
與シ其除害ノ頭數頗ル巨額ヲ得タリ該法施行以來明治十七年ニ至ル九ヶ年間ニ
シテ總計金二千二百二十四圓五十九錢一厘ヲ支給ス然ルニ斯ノ如キ多額ノ保護
費ヲ消失セシニモ拘ハラズ年々歳々多少ノ被害ヲ免カレス其犬害ニ罹リ咬殺セ
ラレタル頭數六十五頭ノ多キニ至レリ

育羊ニ關スル官吏俸給、雇給器具修繕其他一切ノ費用ヲ加ヘ十八年六月以前ノ失
費ヲ平均一頭ニ割算スルハ左ノ如シ

羊養費

綿羊	一日失費	一ヶ月失費	一年失費
一頭	一錢九厘九毛八五七	五十九錢九厘五毛七一	七圓二十九錢四厘八毛八一

備考

本表諸費算出ノ法ハ從前實行シ來リタル動物何頭ニ牧夫一人又ハ器具ハ一頭ニ付何圓ト割合ヲ立テタル書類ニ依リ俸給ハ現在人員ニ就キ各動物ニ割付セシモノナリ以下牛馬トモ之ニ同シ

明治十八年六月三十日羊ノ現在ハ左ノ如シ

羊頭數

種類	牝	牝	小計
メリノ種	一、一〇九、	二、一五一、	三、二六〇、
サウスタオン種	一二、	一一、	二四、
雜種	三三六、	一六一、	四八七、
通計	一、四四七、	二、三三四、	三、七七一、

護羊犬頭數

種類	牝	牝	小計
西班牙種	七、	八、	一五、
通計	七、	八、	一五、

育馬之部

本邦馬種ノ改良ヲ謀リ周子ク全國ヘ分布シ廣ク人民ノ請願ニ應シテ貸與スルノ趣意ヲ以テ明治十年五月以降乘用、乘車用、農用、貨車用等各種ノ牝牡馬東京内藤新宿試験場畜養ノ分及ヒ米國ヨリ拾餘頭ヲ輸入シ亦奥州牝馬ヲ購求シテ種馬ノ蕃殖ト傍ラ改良種ヲ得ルノ方法ヲ設ケタリ今牽入ノ頭數代價ヲ擧クレハ左表ノ如シ

馬牽入

洋種

年次	九年		十年		十一年		十二年		十四年		十五年		十七年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
頭數	〇	一	〇	一	四	八	一	〇	八	一	二	〇	二	三
總代價	〇	一〇,〇〇〇	〇	五,六五〇円	〇	二八七五円	〇	〇	一,二七五円	〇	四〇〇円	〇	一,四〇〇円	〇
平均壹頭代價	〇	一〇,〇〇〇	〇	九四一円	〇	五七五円	〇	〇	四二五円	〇	四〇〇円	〇	一,四〇〇円	〇
摘				四頭ハ東京新宿試験場ヨリ奉入代價不詳		五頭ハ東京新宿試験場ヨリ奉入代價不詳		外國公使館ヨリ献納又ハ米國ヨリ輸入セシモ代價不詳		八頭ノ内五頭東京新宿試験場又ハ米國ヨリ購求奉入シモ代價不詳		米國ヨリ購入セシモ代價不詳		八頭ノ内五頭外國公使館ヨリ献納又ハ縣廳ヨリ返納ニ依リ代價不詳
要														

合計	十八年		全上	
	牝	牡	牝	牡
頭數	〇	一	〇	四
總代價	〇	〇	〇	一,五〇〇円
平均壹頭代價	〇	〇	〇	三七〇円
摘		縣廳ヨリ返納		四頭ノ内二頭農務局ヨリ奉入レ代價不詳
要				

雜種

年次	九年		十一年		十二年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡
頭數	六	五	三	一	〇	一
總代價	二,七五〇円	一三,一〇〇	一,三〇〇	一〇,〇〇〇	〇	三〇,〇〇〇
平均壹頭代價	四五六〇	二六,二〇〇	九一六六七	一〇,〇〇〇	〇	三〇,〇〇〇
摘						
要						

合計	十八年		十七年		十六年		十五年		十三年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
牝 一四、 牡 三三、	〇	四、	五、	五、	〇	三、	〇	一、	二、	一、
七八一,〇〇〇	〇	六三〇,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	九三四,八〇二	〇	三九〇,〇〇〇	〇	一一〇,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇
六〇,〇七七	〇	一五七,五〇〇	六五,〇〇〇	一八六,九六〇	〇	一三〇,〇〇〇	〇	一一〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇
十四頭ノ内一頭代價不詳			五頭ノ内壹頭代價不詳							

内國種

年次	八年		九年		十年		十一年		十二年		十三年		十四年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
頭數	〇	二〇、	七〇、	四八二、	二五、	〇	二九、	〇	一、	〇	二、	一、	八、	一、
總代價	〇	六六五,一七五	三,二〇六,三三〇	一五〇,九〇,二五〇	一〇,六四〇,〇〇〇	〇	一,七八九,〇〇〇	〇	一六〇,〇〇〇	〇	一,三五,三三〇	九〇,〇〇〇	一,五八五,〇〇〇	〇
平均一頭代價	〇	三三,二五九	四五,八〇四	三二,三〇八	四二,五六〇	〇	六一,六九〇	〇	一六〇,〇〇〇	〇	一一,六〇八	九〇,〇〇〇	一九八,二二五	〇
摘要		奥州産	同	同	同		鹿兒島産三頭其他八奥州産		鹿兒島産		十三頭ノ内一頭代價不詳鹿兒島四頭其他奥州産	能登産	奥州産	

全 上	十五 年		十七 年		十八 年		合 計	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
〇	一四	三二	九	一七	一	二	一七二	五五二
〇	一、二八一、五〇〇	二、三六六、七〇〇	六六一、八二二	一、〇八五、三八三	三〇,〇〇〇	一六五,〇〇〇	一一,二六三、八六二	一九,三二七、五〇八
〇	九一、五三六	七六、三四五	七三、五三五	六三、八四六	三〇,〇〇〇	八二、五〇〇	六六、二五八	三五、〇一四
	奥州産	同	同	北海道産四頭其他奥州産	奥州産	同	百七十一頭ノ内一頭代價不詳	

其蕃殖セシモノ九年以來十八年六月ニ至ル十ヶ年間六百七十八頭ノ多キヲ産出ス其種類ヲ區別スルル片ハ左ノ如シ

馬生産

年 次	洋 種		三回雜種		二回雜種		一回雜種		退却雜頭		内國種		小 計
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	

九 年	十 年		十 一 年		十 二 年		十 三 年		十 四 年		十 五 年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五

合 計	十 八 年		十 七 年		十 六 年		
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	
一八	二四	五	四	三	四	二	三
三	三	二	二				一
四一	四三	一七	一七	一〇	一〇	一〇	八
二九	三三	一四	一一	一一	一四	二二	二〇
一一	七	四	一	一		三	二
一三五	一三三	五	八	三	二	八	五
三三八	三四〇	四七	四三	二八	三〇	三四	三九

四十

備考

一回以下雜種ハ退却雜種ニ奥州種在來野産ハ内國種ノ部ニ編入ス
 前表ノ如ク漸次蕃殖スルニ從ヒ各地方ヘ配布スルノ規模稍々擴充シ猶延テ十三
 年牧畜場ト合併シ其經濟ヲ共ニスルニ及ヒテ經費ノ流用ヲ得畜馬ノ業モ隨テ擴
 張スルニ至レリ創業以降各府縣及ヒ農學校産馬會社等ヘ貸與セシモノ牝牡合セ
 テ百四十二頭ノ多キニ達シタリ

馬貸與

洋種 牡	年三十		年二十		年十一	十年				九年	年次 種類		
	國內 牝	國內 牡	國內 牝	國內 牡	洋種 牝	國內 牝	國內 牡	雜種 牝	洋種 牝	國內 牝	國內 牡	牝	牡
						三				一九		校農	駒場
										一〇		牧場	嶺岡
						五	三			一		場試	新宿
					一	一			一			島福	福
			三			一						木柄	群
二					一							馬森	青
一												局農	勸
	一											川石	長
			三									野長	福
	五											鹽米久	福島
		一										地開留	島
		三										崎長	愛
		一										媛愛	岡
	三											山岡	崎
		三										玉崎	高
		一										知高	靜
		三										岡靜	三
												場育田	種
一												會產靜	岡
一												社馬岡	愛
一												城宮	宮
一												手岩	鹿
												島兒	播
												園葡	州
												田秋	新
												潟新	靜
												社興	岡
												形山	岩
												敬義	山
												山富	茨
												城茨	小
一〇						九	三	一	一	三〇			計

牧馬漸次蕃殖シ其頭數牧場地積ニ超ルヲ以テ十二年九月中内國種牝馬ノ内民家
 へ托シ飼養スル方法ヲ試ムルニ之ヲ請願スル者少カラス其方法タル一ヶ月一回
 牧場へ牽付其景況ヲ實査シ牽付手数料トシテ一ヶ月金二十五錢ヲ給與シ時々牧
 夫ヲ派遣シ檢査ヲナサシメ其取扱不當ノモノハ直チニ引上ケ再ヒ貸下スルヲ禁
 ス預托ノ馬匹ハ交尾既濟ノモノニシテ受胎馬ハ分娩三ヶ月前ヨリ引上ケ當場ニ
 於テ畜養ス該法ハ畜養ノ費用ヲ減シ收場ニ於テハ過牧ヲ免カレ加フルニ間接ニ
 人民ヲシテ耕作ノ肥料ヲ増製セシムル等實際ニ於テ其便益尠ナシトセス故ニ十
 三年六月ニ至リ七十餘頭ヲ預托セリ而シテ蕃殖ニ隨ヒ賣却セシ馬ノ頭數ヲ擧ク
 レハ左表ノ如シ

馬賣却

洋種

年次	頭數		總代價	平均一頭代價
	牝	牡		
十六年	一	一	1,200,000	1,200,000
十八年	一	一	1,000,000	1,000,000

雜種

年次	頭數		總代價	平均一頭代價
	牝	牡		
十年	一	三	3,500,000	780,000
	一	一	3,500,000	3,500,000
十一年	一	五	2,335,000	467,000
	一	一	1,375,000	1,375,000
十二年	一	一	6,000	6,000
	六	一	6,225,000	1,037,500
十三年	二	六	1,411,000	211,667
	一	一	1,975,000	1,975,000
十四年	一〇	一〇	3,585,500	85,850
	一	一	1,000,000	1,000,000
合計	一	一	1,000,000	1,000,000

十七年	十六年		十五年		十四年		十三年		十二年		十一年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
五,二二	六	三,一	一六	三,〇	一九	九,五	二六	五,九	三,三	六,七	二八	三,五
八八二,〇四〇	一,三三,八〇〇	一,一〇,九〇〇	一,一三三,〇〇〇	一,五三六,〇〇〇	一,三六五,三三三	四,一五一,四〇〇	一,三七,五三六	二,九七〇,七五〇	一,〇〇七,二五〇	一,四三三,〇四三	八二五,三五一	七,七九,四〇六
一六,九六二	二〇,三三三	九,二四一七	七〇,一八八	五,一〇,〇〇〇	七,一八六〇	四三,六九九	四八,九八四	五〇,三五一	四七,八五〇	二〇,〇〇八	二九,四七七	二二,二六九

十年	年次		頭數	總代價	平均一頭代價
	牝	牡			
九三	四二	牝	一,四三三,〇〇〇	一,四三三,〇〇〇	一五,五九七
		牡	八八六,四一五	八八六,四一五	二二,六二〇

內國種

合計	十八年		十七年		十六年	十五年
	牝	牡	牝	牡		
一七	八二	一	三	二	二	六
一六,三八,五五〇	八,二六〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	七,三九,〇〇〇	七,四六,〇〇〇	九,四二,〇〇〇
九六,三六八	一〇一,九七五	三五〇,〇〇〇	一〇一,三三三	三六九,五〇〇	四九,七三三	一五七,〇〇〇

合計	十八年	
	牝	牡
	三三	三三
	一七	一七
	三三六,〇〇〇	六六五,七七四
	七六〇,一四三	一九七,六五
	一四,五五五,六五〇	三三,六四三

野馬ハ体格矮少脆弱ニノ之レカ改良ノ効果ヲ見ル甚タ遅緩ナルヲ以テ漸次之ヲ廢止セントセシモ多數ノ頭數容易ニ目的ヲ達シカタシ毎年三月十五日ヲ期シ捕獲シ其往々見込ナキモノハ競賣ニ付シ遂次頭數ヲ減少シ結局全廢ノ目的タリ馬ノ斃死ハ十ヶ年間百五十四頭其内撲殺セシモノハ僅カニ六頭ニ過キス斃死撲殺ノ頭數ヲ年別ニスルハ左ノ如シ

斃馬及撲殺頭數

年次	洋種		三回雜種		二回雜種		一回雜種		退却雜種		內國種		小計
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	
九年													四
													三

年次	洋種		三回雜種		二回雜種		一回雜種		退却雜種		內國種		小計
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	
十七年													三
十六年													九
十五年													一〇
十四年													四
十三年													一〇
十二年													四
十一年													九
十年													一〇

合計	不詳		癩疥 全	癩疥 全
	斃死	撲殺		
一	四	三		
二	三	三		
三	二	三		
四	二	二		
五	二	二		
六	二	二		
七	二	二		
八	二	二		
九	二	二		
十	二	二		
十一	二	二		
十二	二	二		
十三	二	二		
十四	二	二		
十五	二	二		
十六	二	二		
十七	二	二		
十八	二	二		
十九	二	二		
二十	二	二		
二十一	二	二		
二十二	二	二		
二十三	二	二		
二十四	二	二		
二十五	二	二		
二十六	二	二		
二十七	二	二		
二十八	二	二		
二十九	二	二		
三十	二	二		
三十一	二	二		
三十二	二	二		
三十三	二	二		
三十四	二	二		
三十五	二	二		
三十六	二	二		
三十七	二	二		
三十八	二	二		
三十九	二	二		
四十	二	二		
四十一	二	二		
四十二	二	二		
四十三	二	二		
四十四	二	二		
四十五	二	二		
四十六	二	二		
四十七	二	二		
四十八	二	二		
四十九	二	二		
五十	二	二		
五十一	二	二		
五十二	二	二		
五十三	二	二		
五十四	二	二		
五十五	二	二		
五十六	二	二		
五十七	二	二		
五十八	二	二		
五十九	二	二		
六十	二	二		

備考

病症ノ性質不明ニシテ斃死撲殺ノ原因亦瞭然タラサルモノアリ是等ハ皆原書ノ儘附記ス

馬一日飼料ノ分量ハ十五年中ノ調ニ依レハ左ノ如シ

馬飼養分量

種類 年齢	品目	馬飼養分量	
		種類	分量
乘用種牝	麥又ハ燕麥	二升	五合
農乘車用種牝	穀又ハ糠	二升	五合
	乾草	二貫	五百目
	鹽	三	夕

種類	分量
乘用種牝	一升五合
農乘車用種牝	二
内國種牝	二
一歳未滿牝	一

備考

本表ノ如ク定ムルト雖モ状態ニ應シ時々之ヲ増減ス

内國種牝中農馬アリ其使役ノ度ニ應シ時々之ヲ増減ス

一才未滿ノ飼料ハ本表ノ如シト雖モ一才以上ハ成長ニ隨ヒ漸次其量ヲ増加ス

離乳後仔馬飼料ハ凡四ヶ月間朝夕及ヒ夜飼料ヲ與フ

冬飼馬ハ朝夕飼料ノ外穀或ハ糠湯ヲ與フ

飼料ハ夏季ハ生麥等ヲ挽割ニシテ投與シ冬季ハ煮煮物ヲ與フ尤モ夏季ト雖モ老衰馬等ハ煮煮物ヲ與フ

牧夫ハ一ヶ年貳才以上洋馬ハ五頭ニ付一人全當才ハ此ノ半減ニ才以上雜

種及内國種八十頭ニ付一人全當才ハ此半減トス
 右飼料ノ分量ニ應シ十五年十二月物價ニ依リ費額ヲ積算スル并ハ左ノ如シ
 馬飼料費

種類	一日一頭飼料費	一ヶ月一頭飼料費	一ヶ年一頭飼料費
乗用種牡	九錢貳厘四毛	貳圓七拾七錢貳厘	金三拾三圓七拾貳錢六厘
農乘車用種牡	拾錢八厘五毛一	三圓貳拾五錢五厘二毛	金三拾九圓六拾錢六厘一毛五
乘用種牝	八錢一厘貳毛九	貳圓四拾三錢八厘七毛	金貳拾九圓六拾七錢八毛五
農乘車用種牝	九錢七厘四毛	貳圓九拾貳錢貳厘	金三拾五圓五拾五錢一厘
内國種牝牡	九錢貳厘四毛	貳圓七拾七錢貳厘	金三拾三圓七拾貳錢六厘
一歳未滿牝牡	四錢五厘九毛八	壹圓三拾七錢九厘四毛	金拾六圓七拾八錢貳厘七毛

備考

飼料品ノ相場ハ緬羊飼料費調ト同一價格トス
 育馬ニ關スル一切ノ諸費ヲ十八年六月以前ノ全頭數ニ依リ平均壹頭ニ割付スル
 并ハ左ノ如シ

馬養費

馬	一日失費	一ヶ月失費	一ヶ年失費
一頭	拾四錢八厘七毛貳貳	四圓四拾六錢壹厘六六	五拾四圓貳拾八錢三厘五毛三

明治十八年六月三十日現在馬頭數左ノ如シ

馬頭數

種類	牡	牝	小計
サラブレソド種	一一、	一九、	三〇、
ツロツター種	四、	三、	七、
クライデスデール種	四、	一、	五、
パーチエロン種	二、	一、	三、
洋種	二、	一、	三、
驢	二、	一、	三、
二回雜種	二〇、	二七、	四七、
一回雜種	四三、	一〇五、	一四八、

ミ ユ ー ル 種	二、 四、
内 國 種	四一、 一九五、 二二六、
通 計	一二九、 三五四、 四八三、

備考

クライデスデール種及パーチエロン種ハ各頭數判明セサルヲ以テ合記セ

育牛之部

牛ハ明治九年以降米國其他ヨリ購求輸入シテ大ニ其種ヲ蕃殖シ周子ク全國ノ需用ニ應スルノ趣意ナルヲ以テ左表ニ示ス所ノ純良ナル種類ヲ豢養セリ然レモ府縣需用ノ途多ク從テ蕃殖スル犢牛ノミニテハ到底需用ニ應スルニ足ラサルヲ以テ内國ニ於テ數十頭ヲ購求シ專ラ蕃殖ヲ謀レリ

牛牽入

年次	種類		頭數	總代價	一頭平均代價	摘
	牝	牡				
八年	内國種	牝	一四四			代價不詳
	無角種	牝	一			米國ヨリ購入代價不詳
九年	洋種	牝	一			米國ヨリ牝牝四頭購入東京駒場
		牡	四			ヨリ牝一頭移牧セシモ代價不詳
	短角種	牝	六	二二〇弗	四四〇弗	米國ヨリ購入牡一頭代價不詳
		牡	九	一九〇弗	二二弗三三	
十年	デボン種	牝	三	二〇〇弗	二〇〇弗	米國ヨリ購入牡一頭代價不詳
		牡	五	五〇〇弗	一〇〇弗	
	シセル種	牝	三	三〇〇弗	一五〇弗	米國ヨリ購入牝一頭代價不詳
		牡	二	三二五弗	一六二弗五	
洋種	牝	二	八五〇	四二五〇	横濱ヨリ購入	

通計七種	十二年										
	洋種		雜種		洋種		無角種		短角種		
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	
三	一	一	一	三	一	五	九	一六	一	三	一
二八五〇〇〇	四〇〇〇〇			三九五〇〇〇		一四三〇〇〇	四八一〇〇〇	二四八五〇〇〇		三〇〇	六〇〇
三三五〇〇	四〇〇〇〇			一七七五〇〇		二八六〇〇	九六一〇〇	一七七五〇〇		三〇〇	三〇〇
波宮社静岡興農社寄代美喜多ヨリ購入	静岡興農社ヨリ購入	津田出ヨリ返納	岩手縣ヨリ返納	東京及北辰社又ハ猪股要助池田文策ヨリ購入一頭群馬縣ヨリ返納	津田出ヨリ返納	八重垣市右衛門ヨリ購入	勸農局宮城縣其他東京ヨリ購入シ四頭代價不詳	勸農局及ヒ新宿試驗場ヨリ購入セシモ牝三頭代價不詳	勸農局ヨリ牝一頭購入牝一頭ハ代價不詳	東京新宿試驗場ヨリ購入セシモ牝二頭代價不詳	

通計七種	十三年											
	洋種		雜種		洋種		無角種		短角種			
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡		
一〇一	一七四	一	一	二	一	一	一	一	一	三	一	
一〇四七五〇〇	三三三〇〇	七〇〇〇				四五〇〇〇	一五〇〇〇	三三〇〇〇	九〇〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇	
一六〇四九五	一八四四四四	七〇〇〇				四五〇〇〇	七五〇〇〇	一一〇〇〇	四五〇〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇	
一〇一頭ノ内十八頭代價不詳	百十四頭ノ内百五十九頭代價不詳	井上佐太郎ヨリ購入	大高保藏ヨリ購入代價不詳	朽木縣及三田育種場ヨリ返納	津田出ヨリ返納	朽木縣ヨリ返納	駒場農學校ヨリ返納	農務局ヨリ返納	静岡興農社ヨリ購入	静岡興農社及ヒ大高保藏ヨリ購入	一頭茨城縣ヨリ返納其他波宮社及青柳四郎左衛門ヨリ購入	三上平十郎ヨリ購入

十六年	十五年	十四年	十三年	十二年	十一年	十年	十一年		十二年		十三年		十四年		十五年		十六年	
							牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
九	一四	一〇	一一	一〇	五	七	七	一〇	一	三	二	五	四	三	五	六	八	一
九	一四	一〇	一一	一〇	五	七	七	一〇	一	三	二	五	四	三	五	六	八	一
九	一四	一〇	一一	一〇	五	七	七	一〇	一	三	二	五	四	三	五	六	八	一
九	一四	一〇	一一	一〇	五	七	七	一〇	一	三	二	五	四	三	五	六	八	一
九	一四	一〇	一一	一〇	五	七	七	一〇	一	三	二	五	四	三	五	六	八	一

合計	十七年		十八年	
	牝	牡	牝	牡
七、八	二、一	一、一	九、一	三、三
八、六	一、一	一、一	九、一	三、三
九、九	二、一	一、一	九、一	三、三
一一、一	二、一	一、一	九、一	三、三
一二、二	二、一	一、一	九、一	三、三
一三、三	二、一	一、一	九、一	三、三
一四、四	二、一	一、一	九、一	三、三
一五、五	二、一	一、一	九、一	三、三
一六、六	二、一	一、一	九、一	三、三
一七、七	二、一	一、一	九、一	三、三
一八、八	二、一	一、一	九、一	三、三
一九、九	二、一	一、一	九、一	三、三
二〇、〇	二、一	一、一	九、一	三、三

前表ノ如ク蕃殖ヲ謀リ各府縣ヘ貸與シ其餘レルモノ又ハ不良ノモノハ之ヲ賣拂ヒタリ其頭數代價ハ左表ノ如シ

牛賣却種

年次	頭數		總代價	平均一頭代價
	牝	牡		
十三年	一、一	一、一	一六、〇〇〇	一六、〇〇〇
十四年	一、一	一、一	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇
十五年	一、一	一、一	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇

十四年	年次		頭數	總代價	平均一頭代價
	牝	牡			
六	一	二		二四九,〇〇〇	四一,五〇〇
				二七〇,〇〇〇	二七〇,〇〇〇

內國種

合計	十六年		十五年		十四年		十二年		年次	頭數	總代價	平均一頭代價
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡				
九	五	三	一	二	二	五	一		頭數	總代價	平均一頭代價	

雜種

合計	十七年		十五年		年次	頭數	總代價	平均一頭代價
	牝	牡	牝	牡				
四	二	四	二		頭數	總代價	平均一頭代價	

改良種

合計	十七年		十六年		年次	頭數	總代價	平均一頭代價
	牝	牡	牝	牡				
二	八	三	二	四	頭數	總代價	平均一頭代價	

合計	十六年	
	牝	牡
	七	一
	二八九〇〇	四〇〇〇〇
	二七〇〇〇	四〇〇〇〇
	四一、三八六	

牛ノ斃死撲殺ノ頭數ハ馬ニ比スレハ頗ル多シ然レモ明治九年牛疫流行ノ爲メニ斃死撲殺セシ頭數モ尠シトセス今左ニ其年別頭數ヲ掲ク

斃牛及撲殺頭數

年次	洋種		改良種		二回雜種		一回雜種		内國種		小計
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	
十三年	八	三							一	一	一〇
十二年											三
十一年											一
十年	四	三									四
											二
九年									一五		一五
											二

合計	十八年		十七年		十六年		十五年		十四年	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
	三	二	五	一	五	三	一	三	四	一
	四	二			二	二			一	
	一									一
		一								
	二	一五							一	
	四	二九	五	二	八	四	一	三	六	二

其斃死又ハ撲殺セシ素因トナリタムモノヲ類別シ左ニ表示ス

斃牛及撲殺病類表

年 齡	品 目	穀		大豆又ハ 豌豆		燕麥甘藷 馬鈴薯		乾 草	鹽	油 餅
		大麥又ハ燕 麥	大豆又ハ 豌豆	燕麥甘藷 馬鈴薯	燕麥甘藷 馬鈴薯					
四才以上	牡四	升一	升五合一	升二	貫目二貫五百目四	貫目二貫五百目四	貫目二貫五百目四	勺		
三才	牡四	升一	升一	升二	貫目二貫五百目四	貫目二貫五百目四	貫目二貫五百目四	勺		
二才	牡三	升全	八	合一貫六百目二貫目三	貫目三	貫目三	貫目三	勺		
一才	牡二升五合全	六	合一貫六百目一貫六百目全	合一貫六百目一貫六百目全	貫目一貫六百目全	貫目一貫六百目全	貫目一貫六百目全	勺		
六ヶ月	牡二	升五	合	八百目八百目貳	貫目八百目貳	貫目八百目貳	貫目八百目貳	勺三		合
四才以上	牡五	升一	升五合	二貫目三貫目四	貫目三貫目四	貫目三貫目四	貫目三貫目四	勺		
三才	牡全	一	升	全	二貫五百目全	二貫五百目全	二貫五百目全	勺		
二才	牡四	升全	合	一貫六百目二貫目三	貫目二貫目三	貫目二貫目三	貫目二貫目三	勺		
一才	牡三	升八	合	一貫六百目一貫六百目三	貫目一貫六百目三	貫目一貫六百目三	貫目一貫六百目三	勺		
六ヶ月	牡二	升六	合	八百目八百目二	貫目八百目二	貫目八百目二	貫目八百目二	勺三		合

牛夏期飼養分量

年 齡	品 目	穀	大麥又ハ燕麥乾	草	鹽
--------	--------	---	---------	---	---

四才以上	牡三	升五合一	升二貫五百目三	全	勺
三才	牡三	升一	升全	全	
二才	牡二	升一	升二貫	目全	
一才	牡全	五	合一貫六百目二	目全	勺
六ヶ月	牡一	升全	八	百目全	
四才以上	牡四	升一	升三貫	目三	勺
三才	牡全	八	合二貫五百目全	目全	
二才	牡三	升六	合二貫	目全	
一才	牡二	升五	合一貫六百目二	目二	勺
六ヶ月	牡一	升五	合八	百目二	勺

備考

本表ノ如ク定ムルト雖モ時々景況ニ應シ穀類及ヒ菜根類ヲ交換増減シ與フ
飼料ハ夏季生麥等ヲ挽割ニシテ投與シ冬季ハ煮烹物ヲ與フ尤モ夏季ト雖モ
老衰牛ハ煮烹物ヲ與フ

冬季トハ十一月ヨリ四月マテ夏季トハ五月ヨリ十月マテ各六ヶ月間トス
 牧夫ハ一ヶ年牛十頭ニ付平均一人ヲ付ス
 前表冬季夏季ノ飼料ヲ平均シ十五年十二月ノ物價ニ基キ費額ヲ算出スルルハ左
 ノ如シ

牛飼料費

年	令一日	一頭飼料費	一ヶ月	一頭飼料費	一ヶ年	一頭飼料費
四才以上牝	拾參錢九厘八毛九一	四圓拾九錢六厘七毛三	金五拾壹圓六錢貳毛			
三才牝	拾參錢壹厘壹毛四	三圓九拾三錢四厘貳毛	金四拾七圓八拾六錢六厘壹毛			
二才牝	拾錢五厘五毛八	參圓拾六錢七厘四毛	金參拾八圓五拾參錢六厘七毛			
一才牝	八錢四厘九毛〇五	貳圓五拾四錢七厘一毛五	金參拾圓九拾九錢〇三毛三			
六ヶ月牝	六錢貳厘九毛	壹圓八拾八錢七厘	金貳拾貳圓九拾五錢八厘五毛			
四才以上牝	拾參錢四厘四毛九一	四圓參錢四厘七毛三	金四拾九圓八錢九厘貳毛貳			
三才牝	拾貳錢壹厘七毛一八	三圓六拾五錢一厘五毛四	金四拾四圓四拾貳錢七厘〇七			
二才牝	九錢七厘九毛三六	貳圓九拾三錢八厘〇八	金三拾五圓七拾四六厘六毛四			
一才牝	七錢貳厘八毛八三	貳圓拾八錢六厘四毛九	金貳拾六圓六拾錢貳厘三毛			

六ヶ月牝六錢三厘四毛五六

壹圓九拾錢三厘六毛八

金貳拾三圓拾六錢壹厘四毛四

備考

飼料品ノ代價ハ緬羊飼料品ノ相場ト異ナルヲナシ緬羊ニ與ヘサル大豆油餅
 ノ代價ハ大豆一石ニ付金四圓油餅一石ニ付四圓五拾錢ノ割合トス
 牝牛ノ内能ク牧夫ニ馴致シタルモノヲ撰ミ其頸部ニ鈴ヲ付シ先導牛トナス先導
 牛ハ歐米ニテ專ラ舉行スル所ニシテ既ニ當場ノ如キ多數ヲ廣原ヘ放牧スルニハ
 必ス先導牛ナカルベカラス然シテ放牧中假令灌木牛体ヲ沒スルノ牧野ニアルモ
 牧夫鈴聲ヲ聞キ探索スルニ便ナラシム
 製乳ハ牧牛家ニ附帶スルモノニシテ欠クヘカラサルノ事業トス當場ニ於テハ素
 ヲリ種牛ヲ蕃殖シ專ラ犢牛ヲ養育スルノ趣意ナルカ故ニ離乳期モ亦タ遅ク乳汁
 ハ犢牛ノ消費スル所トナルモ自然殘乳ヲ生スルアリ故ニ牛酪煉乳乾酪等ヲ試製
 シ傍ラ各府縣ヨリ依頼ニ係ル牧牛脩學者ニ教授セリ
 育牛ニ關スル諸費ヲ加ヘ十八年六月以前ノ失費ヲ平均壹頭ニ割付スルルハ左ノ
 如シ

牛養費

牛	一	日	失	費	一	ヶ	月	失	費	一	ヶ	年	失	費
一頭拾四錢六厘五毛貳貳五			四圓三拾九錢五厘六毛八			五拾參圓四拾八錢七毛一三								

七十六

明治十八年六月三十日現在牛ノ頭數左ノ如シ

牛頭數

種	類	牡	牝	小	計
純粹短角種		八	一〇		一八
純粹デボン種		二	三		五
純粹ゼルシー種		三	三		六
短角二回改良種			七		七
無角一回改良種		一	一六		一七
デボン一回改良種		四	三		七
ゼルシー一回改良種			一		一
洋種			一		一

短角二回雜種	ゼルシー二回雜種	短角一回雜種	通計
一			一九
			五七
			七六

養豚之部

豚蕃殖ハ人生必用就中農家經濟ニ於テ欠クベカラサルモノナリ牧羊場ノ設立アリシニ際シ側ラ該畜ノ蕃殖ヲ謀リ牛馬ノ殘餘物ヲ以テ畜養セントシ九年三月横濱ニ於テ英國パークシヤイアー種十九頭ヲ購求ス其代價左ノ如シ

一金貳百圓也 豚十九頭

内

金百四拾圓也

牡豚四頭代

七十七

但一頭ニ付金三十五圓
 金六拾圓也
 但一頭ニ付金四圓
 幼豚十五頭代

前記ノ頭數着場兩國區ニ於テ飼養スル牛馬飼料ノ殘餘物些少ニシテ到底之カ飼料ニ充ツルニ足ラサルヲ以テ各區ヘ分配蕃殖ヲ謀リ定數超過ノ牡豚ハ學丸ヲ援斷及ヒ牝豚ヲ合セテ乾豚ヲ製造シ之ヲ請願者ニ拂下ケ乾豚ノ要用ナルヲテ人民ニ指示シ兼テ生徒ヲシテ其製法ヲ習得セシメタリ

明治十三年六月中本省ヨリ種豚五十頭ヲ回送セラル其趣意タル内務卿ノ意見ニ基キ數百頭ヲ買上ケ各府縣ヘ配付シ專ラ蕃殖ヲ謀リ廣ク内國ヘ傳播セシメントスルニアリ依テ本場ヘ合計五拾頭ヲ畜養スルヲトシ各區ヘ分配シ厚ク注意ヲ加ヘ大ニ蕃殖ヲ計レリ其各區ヘ配置シタル頭數左ノ如シ

- 牝一頭 兩國區
- 牝八頭 三塚區
- 牝拾一頭 獅々穴區
- 牝十一頭

- 牝十一頭 駒ノ頭區
- 牝八頭 兩國區ノ内
- 計牝參頭 金堀
- 計牝四十七頭

以上ノ畜豚ヨリ蕃殖セルモノ甚タ多ク每歲幾多ノ頭數ヲ屠リ乾豚ニ製スト雖到底牛馬ノ殘餘ヲ以テ飼養スル能ハサルニ至ル故ニ補フニ夏季ハ青草ヲ柵内ヘ投入シ冬季ハ蕪菁若クハ甘藷ノ屑ヲ飼與シ或ハ醬油糟ヲ購ヒ之カ不足ヲ補フ等專ラ簡易ノ方法ヲ以テ飼養シ大ニ經濟ノ宜シキヲ得タリ然ルニ内地ニ於テハ種豚ニ供スヘキ良畜ヲ得サルヲ以テ全族交尾ノ蕃殖ヲ謀ルカ故ニ自然骨格矮少ニ傾キ頗ル卑陋ノ体格トナル因テ再ヒ之カ改良ヲ謀ルノ計劃中適々橫濱ヘ良種ノ輸入アルヲ以テ十八年二月中牝牡二頭ヲ購求シテ漸次良種ヲ増殖セントセリ茲ニ十八年六月現在畜養スル頭數ヲ左ニ掲載ス

區名	種類	牝	牡	割	小	計
駒之頭區	パークシャイヤー種	一	一			二
猪之頭區	雜種	七	二	三		一二

合計二	種	八	三	三	一四
-----	---	---	---	---	----

備考

購求原數ニ比較シテ現存頭數ノ甚タ少ナキハ其増殖スルニ從テ骨格不良ノモノハ毎歲冬季肥腹スルニ及テ乾豚ニ製造シテ拂下ケ或ハ往々見込ナキ仔豚ハ賣却シ又多少ノ斃死アルニ由ル

耕耘之部

明治八年九月道路開鑿家屋建築ヲ始メ百般ノ事業頗ル繁雜ヲ極メ加フルニ東京内藤新宿勸業寮試驗場ニ於テ模造ノ農器未タ到着セス先キニ耕牛ノ爲メ購買シタル牡牛ヲ劔トナシ專ラ馴致スル等迅速荒蕪開墾ニ從事スルヲ得ス尋テ器械ノ大半着シ耕牛モ稍々馴練シタルヲ以テ全年十一月下旬ニ至リ牧羊場宇兩國并ニ取香種畜場ニ於テ僅カニ二町步餘ヲ開墾シ爾後耕牛累月熟練スルニ從ヒ每伍新頭一二牛ヲ加ヘテ馴致スルニ其輕捷ナルヲ當初ノ如キ困難ヲ覺ヘス整列歩ヲ

均フスルニ至ル耕牛列伍ノ組成タル一軛二頭トナシ六軛ヲ以テ一組ト定ム泰西耕牛ノ一組ト稱スルハ大約二軛ヨリ四軛ヲ限リトスル由然ルニ當場創業日淺ク犂夫并ニ牛共ニ未タ全ク慣レス加フルニ灌木栗柏檜萩藤ノ如キ其根株極メテ大ナリ故ニ牛モ隨テ増加セサルヲ得ス最初一組ニ從事スル人員ハ鼻牽繩者犂夫等五人ヲ要シタルモ漸々慣習スルニ從テ犂夫ノ外鞭者一人ニテ能ク使役スルニ至ル十二月ニ至リ十二組ノ犂ヲ以テ盛ニ開墾ニ從事シ一組能ク四反歩ヲ撥起スルニ至ル元來牛耕ノ主意タル積年老齡ニ及ヒ使役ニ供スル能ハサルニ至レハ肉牛トナスノ利アルカ故ニ先ニ東京及ヒ青森地方ヨリ購求セシ牛ハ悉ク劔トナシタルハ一ハ以テ勞役ニ服從セシメ一ハ以テ少量ノ食餌能ク肥腹スルノ益アルニ基キタルナリ然ルニ九年一月初ヨリ耕牛中牛疫即チ「リンドルベスト」ヲ發シ百方治術ヲ盡スモ絶テ功驗ナク累々斃死スル者四十八頭ニ及ヘリ該病タル一タヒ感染スル牝ハ之ヲ治スルノ術ナク唯々撲殺又ハ火燒シ健牛ヲ遠隔ノ地ニ移シ疫氣ニ感觸セシメサルノ一法アルノミ因テ感染セシ六十七頭ハ盡ク撲殺シ斃死ヲ合セテ百十五頭ナリ亦遠隔ノ地へ避ケ此害ヲ免レタルハ僅々二十九頭トス玆ニ於テ斷然牛耕ヲ廢シ馬耕トナスニ決ス然シテ永遠ノ利益ヲ謀ルカ爲メ牝馬ヲ購求

使役スル片ハ其傍ヲ蕃殖ノ用ニ供スルノ利アリ依テ岩山權助吏員ヲ隨ハ奥州ニ赴キ牝馬購求ニ着手ス其間袖手シテ購馬ノ來着ヲ俟ツ片ハ開墾ノ事業ヲ中止セサルヲ得ス故ニ當時現在ノ人カヲ以テ開拓シ僅ニ耕鋤ノ業ヲ續クヲ得タリ越テ三月ニ及テ奥州ヨリ三百五十餘頭ノ牝馬來着シ新タニ之ヲ調教馴致シテ以テ前業ヲ再興スルヲ得ルノ后馬耕ノ牛耕ヨリ敏捷ナルヲ殆ント一倍ノ益アルヲ以テ爾來開墾ノ方法ヲ馬耕ニ改ム創業以來毎年耕作ノ反別左ノ如シ

雜耕地及牧草地反別

年度	耕作地反別		耕作地反別	
	雜耕地	牧草地	増	減
八年	五拾町五反步		五拾町五反步	
九年	百八拾一町七畝二十步		百三拾町五反七畝二十步	
十年	貳百二十五町六反拾八步		五拾六町五反二畝二十八步	拾貳町步
十一年	三百五町八反三畝二十九步		八拾町二反三畝拾一步	
十二年	三百四拾九町五反八畝二十七步	三町步	四拾六町七反四畝二十八步	
十三年	四百二十一町七反四畝二十六步	四町八反四畝三歩	七拾七町貳歩	

十四年	四百五拾四町八反九畝二十三歩	拾九町六反八畝十八歩	五拾貳町八反三畝十五歩	
十五年	三百七拾町九反五畝拾八歩	拾四町貳反六畝拾三歩	四拾六町八畝八歩	百拾五町七反六畝歩
十六年	三百九拾六町六反拾八歩	七町七反六畝拾七歩	參拾四町六反九畝二十九歩	壹町貳反八畝拾貳歩
十七年	三百四拾三町六反拾四歩	五拾一町二反三畝五歩	五町五反三畝二十九歩	三町七反七畝歩
十八年	三百五拾三町二反七畝二歩	四拾八町二反四畝二十一步	五拾八町八反貳畝壹歩	九反貳拾貳歩

備考

表中牧草地ハ雜耕地中へ牧草ヲ播種シ其反別ヲ雜耕地ヨリ牧草地へ編入セシモノナリ

耕作地増減ノ部増ハ年々新規開墾雜耕地中へ編入シ減ハ十四年中場内獅々穴金堀ノ兩區拂下又ハ樹林地或ハ放牧地ニ供シ雜耕地反別ヲ減少セリ

耕種ノ穀菜ハ専ラ動物ノ飼料ニ供スル者ヲ第一トシ第二ニ地味適當ノ種類ヲ播種シ其收利ヲ得テ事業ノ幾分ヲ補ヒ合テ混同農事ノ端緒ヲ開カントノ目的ヲ以テ着手セリ然ルニ左ニ記載スル各種類ハ創業以來耕種セシモノナリト雖モ其種類ノ内落花生ハ明治十年ヨリ四ヶ年間播種シ其結果ヲ見ルニ果シテ地味ニ適當

シ相應ノ收穫ヲ得タリ然レハ蟲害其他鳥土龍狐貉等ノ害最モ甚シク之カ豫防ノ出費及ヒ收穫ニ臨ミ人力ヲ要スルヲ以テ意外ノ費用ヲ増加セリ故ニ本場必要ノ種類ニ非ラサルヲ以テ右四ヶ年ヲ限り全廢セリ又飼葉豆稗蘿蔔蜀黍ノ四種モ皆地味ニ適スト雖ハ飼葉豆及稗ニ至リテハ燕麥ノ收利アリ蘿蔔ハ燕青蜀黍ハ玉蜀黍ノアルヲ以テ何レモ播種ヲ止メタリ獨リ瑞典燕青ハ牧畜家ノ最モ欠クヘカラサル根菜ナレハ創業以來屢々注意播種スト雖ハ年々蟲害ヲ蒙リ満足ノ結果ヲ見サルノミナラス皆無ニ屬スルヲアリ之ニ因テ中止シ長燕青ヲ作出シ代用スルニ決シタリ然レトモ此長燕青ハ瑞典燕青ト異リ水分多量ニシテ滋養少ケレハ動物健康上ニ掛念スルヲ年々ナリ依テ十六年ニ至リ瑞典燕青ニ代ヘ紫菜ヲ試作スルニ幸ニシテ結好果ヲ得續テ十七年ニ於テ各區ニ數町歩ヲ試作シ大ニ擴張ヲ謀ラントセシモ十八年六月轉轄ニ際シ之ヲ止ム

耕作種類

燕	麥大	麥小	麥玉	蜀黍	黍大	豆飼葉	豆蘿	葡萄	麥
稗	陸稻	豌豆	麥馬	鈴薯	薯甘	薯落	花生	燕青	燕麥
胡蘿蔔	蘆粟	赤頭	草貓	尾草	薯	香蕪	芒	大麥	菜
									種白
									胡麻

麻	甜菜乾	牧草野	乾草	紫菜	菜混合	牧草赤	白苜蓿	園	丁草
---	-----	-----	----	----	-----	-----	-----	---	----

牧草ノ良否ハ畜養上ニ大關係アリ然ルニ本邦ノ草質タル外國種ノ比ニ非ザルヲ以テ創業ノ際ヨリ種子ヲ輸入シ開墾地ニ播種スト雖ハ本邦雜草ニ壓セラレ繁茂スルヲ得サルノミナラス一兩年ヲ經ルノ后消失セリ故ニ開墾地ハ三ヶ年穀菜ヲ播種シ熟畑トナシ而シテ外國牧草種ヲ播種スルニ決シタリ今輸入牧草種ノ種類ヲ掲クレハ左ノ如シ

輸入牧草種

赤頭草	貓尾草	ヘルドグラス	苜蓿	香園	丁草	メドローグラス	赤苜蓿	永年裸麥草
羊莠	スエードウ	アルセキ	白苜蓿	アルアラ	マングラ	プレット		
エナル	ク	クロバ						

播種法ハ多ク畦播トス然レハ乾草用燕麥及ヒ牧草ハ撒播トシ大小麥モ時トシテ撒播トスルアリ畦播ハ反別ニ應スル肥料ヲ運搬シ圃中ニ點々配付シ后畦溝ヲ穿チ之ヲ溝内ヘ配付シ播種了テ覆土器ヲ以テ適宜ノ厚サニ土ヲ覆フ撒播ハ反別ニ應シ肥量ヲ定メ車上之ヲ撒布シ播種終テ齒鋤或ハ灌木耙撈ヲ施シ後チ輾木ヲ以テ土地ヲ壓抑ス畦播ハ時期ニ臨ミテ耨リ收穫期節迄大約三回トシ亦陸稻ノ如キ

ハ人カヲ以テ雜草ヲ芟除スルヲ常トス此十四十五兩年度ニ跨ル播種收穫ノ實費及ヒ肥料ノ分量ハ左ニ之ヲ掲ク

播種收穫實費

作物	播種反別	一反步種子量	收穫	高一一反步平均收量	壹反步平均出費	壹石實費
燕麥	百三拾貳町 貳反步	四升五合	千四百五拾八石壹斗九升九合	四圓貳拾九錢九合	三圓五拾八錢七厘	七厘一毛五
大麥	百四拾七町 九反步	四升五合	千七百五十三石壹斗壹斗九合	四圓六拾五錢	三圓九拾貳錢	八厘一毛五
小麥	三拾貳町 九反步	三升五合	貳百四拾石七斗三升	四圓七拾貳錢	六圓四拾五錢〇	五毛一
玉蜀黍	七拾町 七反步	貳升	九百貳拾四石七斗九升壹石三斗八升	三圓九拾九錢	貳圓八拾九錢	五厘六毛五
赤蜀黍	貳拾九町 八反步	貳升五合	百四拾壹石四斗	四斗七升四合五勺	三圓九拾七錢	八厘三拾七錢
陸稻	八拾壹町 三反步	四升	六百七拾貳石八斗貳升七合七勺	五圓六拾壹錢	六圓七拾八錢	七厘五毛一
大豆	參拾參町 六反參畝步	五升	九拾六石九斗貳斗八升	壹圓九拾六錢	六圓八拾七錢	六厘七毛五
蕪菁	參拾壹町 壹反步	貳合	九萬三千三百五拾八貫目	貳百九拾參貫	四圓七拾六錢	百貫目
甘藷	參拾九町 八反步	四千本	六萬四千三百五拾百六拾一貫	七百目	三圓五錢九厘	全
野乾草	七拾九町 九拾八		貳拾八萬參千參拾五貫	五百目余	貳拾錢三厘一毛全	六五十七錢二厘二毛八

備考

本表ノ實費ハ事務所費衛生費官吏給料ハ不明瞭ニ付之ヲ除キ其他費額ニ於テ從來取調アル各耕種ニ就キ區別算出セシモノナリ而シテ前記扣除セシ費額ヲ更ニ加ブレハ猶ホ多額ノ實費ヲ増加スルモノトス

動物飼料其他牧場ニ於テ使用スルニハ悉ク時價ヲ以テ需用ノ各掛ヘ賣渡スヘキ例ナルモ本年度ニ於テ收入ニ對スル出費ノ嵩ム一金一万四百六拾九圓六拾七錢一厘猶事務所費衛生費官吏給料等割賦ノ金額ヲ合算スレハ頗ル巨額ノ損失ヲ告ケタルモノトス

肥料種類一反步分量及實費

作物	糠	篠灰	人糞	磷酸石灰	堆肥	實費
燕麥	五貫目	五俵	半荷		壹臺半	六拾七錢
大麥	七貫目	五俵	半荷		貳臺	八拾貳錢
小麥	八貫目	四俵半	半荷		貳臺	八拾七錢
玉蜀黍	五貫目	五俵	一荷		貳臺	七拾壹錢五厘

蜀黍	五貫目	三俵	全	貳	壹	六拾壹錢五厘
陸稻	拾貫目	六俵	全	貳	壹	壹圓貳拾五錢貳厘五毛
大豆				壹	壹	貳拾錢
蕪菁	貳貫五百目	貳俵半	一荷	壹	壹	四拾錢貳厘五毛
牧草	三貫五百目	三俵半	全	全		五拾貳錢七厘五毛

備考

籾灰壹俵ハ四貫目入人糞一荷ハ貳斗入堆肥ハ一臺百五十貫目トス
 糠拾貫目金七拾五錢籾灰壹俵金五錢人糞壹荷金九錢磷酸石灰一磅金四錢
 五厘ノ相場ヲ以テ算出ス
 大豆ハ間作ニシテ混合肥料ヲ要セス或ハ圃場ノ都合ニヨリ單獨播種ヲ爲
 ス片ハ表示ノ如ク一反歩金貳十錢ヲ要スル割合トス
 肥料品ノ價格ハ時々昂低アルモ本表ノ相場ハ其年度中實際購入セシモノ
 ナ平均算出ス
 堆肥ハ牧場産出ノ牛馬羊糞ニ付價格ヲ算出セス

收穫法ハ種類ニ依リ緩急難易アリト雖モ專ラ泰西農器ヲ使用ス耕種中燕麥ノ如
 キハ小シク其收期ニ後ル、カ或ハ期季ヲ誤ラサルモ雨天連日ニ涉ルトキハ脱粒
 損害ヲ蒙ル、甚タ多シ故ニ他作物ニ比シ稍々若キ間ニ於テ收穫ス最初野生乾草
 ナ收穫スルニ甚タ鄭寧ヲ加ヘ剪草機械ハ朝露燥キ去テ後チ剪リ該日苜リタルモ
 ノハ毎夕之ヲ小堆トナシ翌日再ヒ之ヲ撒布スル等頗ル手數ヲ要シタルモ爾來收
 穫ノ反別ヲ増加シ以上ノ手數ヲ履行スル能ハサルノミナラス收支相償ハス且如
 此鄭重ヲ盡サザルモ草質ノ變害ヲ生スル、ナシ乾草收穫ハ期節最モ短ク寸時モ
 油斷スベカラサル時季ナルカ故ニ早天ヨリ夜中ニ涉リ人馬交代ニテ機械ヲ止メ
 ス馬糞ハ既ニ芻伏シタル乾草ヲ掻集シ馬車ハ之ヲ運搬シ去リ畜舎ニ階其他適宜
 ノ場所ヘ堆積シ舎内既ニ滿ツレバ現場ニ堆積スル等都テ良美多量ノ乾草ヲ得ン
 ト欲スルノ外他事ナキナリ是レ畢竟冬季六ヶ月間動物ノ飼料ニ充テ健康ヲ謀ル
 主要ノモノナレハ精細注意ヲ盡サザルヲ得ス又近年ニ至リ手苜干草ノ設ケアリ
 是ハ樹林下草或ハ機械ヲ用ユル能ハサル處ノ草ハ之ヲ手刈トシテ農馬蕃殖馬等
 ノ冬飼ニ供ス
 以上耕耘事業ヲ施行スルニ當リ泰西農機ノ輸入ヲ必要トス依テ九年以降左ノ農

機ヲ購買輸入セリ

輸入農機種類代價

種年	九		十		十一年		十二年		十三年		合	計
	數量代	價	數量代	價	數量代	價	數量代	價	數量代	價		
剪草器	二	三六一、九〇一	四	四七五、〇四四	七	八六一、六四五	一	一五一、三一九	一	一、〇七八、四九二	一四	一、八四九、九〇九
脱秤器	一	一八七、五五二					一	一、〇七八、四九二			二	一、九五七、〇四四
蒸氣鑪							一	二、八三八、九四八			一	二、八三八、九四八
三頭牽カルチ							一	五二、三〇八			一	五二、三〇八
二頭牽シヨ							二	一〇、四六二			二	一〇、四六二
アルプラガ							三	三、六六一			三	三、六六一
シンギリ							三	三、六六一			三	三、六六一
ホーシツボ							一	九〇、四七八			一	九〇、四七八
ホーシツボ							一	九〇、四七八			一	九〇、四七八
三又ホーク			一	一、〇一五	二	二、〇三〇	一	一、〇一五			三	三、〇六〇
四又ホーク			一	一、〇一五	二	二、〇三〇	一	一、〇一五			三	三、〇六〇
剪毛鋏			三	三、〇一五	九	九、〇四五	一	一、〇一五			一三	一三、〇八〇
收穫器			二	二、〇三〇			一	一、〇一五			三	三、〇四五

砥石	二	四、四七一									二	四、四七一
ガンブ	一	一〇一、七一五									一	一〇一、七一五
稿切器	八	一五六、四八五									八	一五六、四八五
馬糞	一	四二、七五四									一	四二、七五四
乾草												
通計	三	三、二四〇、四五三	一	一、〇一五	二	二、〇三〇	一	一、〇一五			三	三、〇四五

備考

本場ニ使用スル農器ハ内國形及西洋形ヲ混シ使用ス内國形ハ鋤鎌方能押切器ニシテ此餘ハ一切西洋形トス創業以降第二期中ニ外國ヨリ輸入セシ農器ハ本表ノ如シ而シテ其他西洋形農器ハ數多アリト雖モ總テ本邦ニ於テ模造セシテ用ユ

明治九年一月中牛疫發生撲滅ノ後千人力ヲ以テ開墾シ後又馬耕ニ移リタル片人耕ト馬耕ノ比較ヲ取り猶進シテ人力馬力乾草收穫及ヒ麥刈取ノ比較ヲ爲シタリ然ルニ諸般ノ事業逐年進歩シ或ハ現今實施スル所ト差異ナキヲ保セスト雖トモ

左ニ其比較ヲ示ス

人耕馬耕ノ損益比較

荒起人耕ノ入費

一金參拾參圓 但反別一町步

内 譯

金拾五圓

但荒起一人ニテ三拾坪トシテ都合人夫百人一人ノ賃金拾五錢

金拾八圓

但土碎并根集メ人夫百貳拾人一人ノ賃金拾五錢

荒起馬耕ノ入費

一金拾壹圓貳拾貳錢 但反別一町步

内 譯

金六圓貳拾五錢

但六頭牽犁及齒耙ヲ以テス故ニ農馬延頭數五拾頭一頭飼料一日金拾貳

錢五厘宛

金四圓九拾七錢

但犁ニ農夫八人三分齒耙ニ八人三分根集メ十一人都合二十七人六分給

料一人金十八錢宛

々

差引馬耕ノ純益

金二十壹圓七拾八錢

内

金貳圓拾八錢

器械代トシテ純益ノ一割ヲ引

全益

金拾九圓六拾錢

起返シ人耕入費

一金拾圓八拾錢 但反別一町步

但起返シ根集メ農夫都合六拾人

起返シ馬耕入費

一金參圓拾貳錢 但反別一町步

内譯

金壹圓五拾錢

但三頭牽犁二日半齒耙一日半此農馬拾二頭ノ飼料

金壹圓六拾二錢

但犁ニ二人半齒耙一人半根集メ五人都合農夫九人給料

差引馬耕ノ純益

金七圓六拾八錢

内

金七拾八錢

機械代トシテ純益ノ一割ヲ引

全益

金六圓九拾錢

人力乾草整頓入費

一金貳拾圓

但三千貫目

但人夫雇上干草ヲ整頓シ其場處ニ積置クハ金壹圓ニ付百五拾貫目ヲ

得ル故ニ如此

剪草機前全斷入費

一金貳圓六十貳錢

但三千貫目

内譯

金壹圓

但剪草器ニ農馬二頭宛二日馬耙農馬一頭宛二日四輪馬車農馬二頭都合

八頭飼料

金壹圓六拾貳錢

但剪草器二人四輪車一人馬耙二人積方四人都合九人給料

差引馬力器械ノ純益

金拾七圓三十八錢

内

金三圓四拾八錢

機械修繕代トシテ純益ノ二割ヲ引

全益

金拾三圓九拾錢

人力麥刈入費

一金壹圓四拾四錢

但四町步

但農夫一人ニ一日五反步苟三畦間都合八人ノ給料

馬力麥刈入費

一金四拾參錢

但四町步

内譯

金貳拾五錢

但剪草器農馬二頭ノ飼料

金拾八錢

但剪草器使用ノ農夫一人給料

差引馬力ノ純益

金壹圓壹錢

内

金四拾錢

器械修繕代トシテ引

全益

金六拾壹錢

但使用ハ合作ニ用ユル能ハス

人力麥脱稈収穫入費

一金五圓四拾錢

但貳拾四石ノ取上ケ

但農夫一人打落ノ上取仕舞迄八斗トシテ都合三十人ヲ要ス

馬力并脱稈機収穫入費

一金貳圓七拾壹錢

但貳拾四石

内譯

金壹圓貳拾五錢

但馬力器械付農馬十頭飼料

金貳拾錢

但水油五合ノ代

金壹圓貳拾六錢

但脱稗器馬力其他共農夫七人飼料

差引馬力ノ純益

金貳圓六拾九錢

内

金壹圓

器械修繕入費引

全益

金壹圓六拾九錢

明治九年以來農機ノ輸入ニ當リ在來ノ人耕農器ト比較ヲ爲シタリ然ルニ爾后諸般ノ事業進歩セシテ以テ目今實施スル所ト差異ナキ能ハスト雖トモ爰ニ其比較ヲ示ス

器械力ト人力ト比較

器械力實施

剪草機 原名(モイニングメシキ)

此器械ハ一日(八時間ナリ)馬二頭農夫一

人ニテ四町歩ノ草ヲ刈リ得ル

馬 耙 原名(ホースレーキ)

此器ハ剪草器ニテ苅リタル草ヲ集ム

ルノ用具ニテ馬一頭農夫一人ニテ一

日ニ五町歩ノ草ヲ集メ得ル

九頭牽犁 原名(プレツキング)

此農器ハ荒蕪地ヲ開發スルニ用ユ馬

九頭農夫三人ニテ一日ニ六反歩ヲ荒

起ス

六頭牽犁 原名(プレツキング)

此農器ハ木根等少キ荒蕪地ヲ開發ス

ルニ用ユ馬六頭農夫二人ニテ一日ニ

人力

小 鎌

此器ニテ一日四町歩ノ草ヲ苅ル片ハ

農夫八十人ヲ要ス

熊 手

此器ニテ一日五町歩苅リノ草ヲ集ム

ル片ハ農夫十人ヲ要ス

格子鋏

此器ニテ一日六反歩ノ荒蕪地ヲ開發

スル片ハ農夫六十人ヲ要ス

全 上

此器ニテ一日ニ四反五畝歩ノ木根等

少キ荒蕪地ヲ荒起スル片ハ三十四人

四反五畝歩ヲ荒起ス

耙 鋤 原名(ハロ)

此農器ハ犁ノ撥起シタル土塊ヲ破碎平均スルニ用ユ土地ノ難易ニ由テ異レトモ通例馬三頭農夫一人ニテ一日ニ荒起地ハ三反歩ヨリ五反歩熟地ハ六反歩ヨリ一町歩ニ至ル

三頭牽犁 原名(ストロングプラチ)

此農器ハ熟畑犁ナリ馬三頭農夫一人ニテ一日ニ三反五畝歩ヲ耕鋤ス

一頭牽犁 原名(ガードンプラチ)

此農器ハ蔬菜園等ノ中間ヲ耕鋤スルノ用ニ充ツ馬一頭農夫一人ニテ一日一反五畝歩ヲ通常トス

畫線兼復鍬鋤 原名(當場ニ於テ工夫ス)

ヲ要ス

萬能

此器ハ格子鋤ニテ荒起シタル土塊ヲ破碎平均スルニハ土地ノ難易ニ由テ異レテ一日ニ熟地ハ六反歩ヨリ一町歩ニ至ルノ地ヲ整頓スルニハ農夫十八人ヲ要ス

作 鋤

此器ニテ一日ニ三反五畝歩ヲ耕鋤スル片ハ農夫五人ヲ要ス

作 鋤

此器ニテ一日ニ一反五畝歩ヲ耕鋤スルニハ農夫二人ヲ要ス

繩引き并作鋤

此器ハ穀菜播種地用トシテ馬一頭農夫一人ニテ一日二町歩ノ畦ヲ整頓ス

撒蒔播種機 原名(アロウドカスト、ソウサキシメシキ)

此器ハ雜穀牧草等ノ撒蒔播種用ニ充ツ農夫一人ニテ一日ニ四町歩ヲ撒播ス

覆土器 (當場ニ於テ工夫ス)

此器ハ播種シタル種物ニ土ヲ覆フニ用ユ馬一頭農夫一人ニテ一町歩ヲ整頓ス

馬力輾轆 原名(ローラル)

此器ハ雜穀牧草等ヲ播種シタル地ヲ鎮壓スルニ用ユ馬二頭農夫一人ニテ一日四町歩ニ施ス

鍬 鋤 原名(シヨールプラオ)

百

此器ニテ一日ニ二町歩ノ畦ヲ整頓スルニハ農夫十人ヲ要ス

撒シ手蒔

此レハ一日ニ四町歩ヲ撒播スル片ハ農夫二人ヲ要ス

萬能

一日ニ一町歩ノ播種シタル種物ニ土ヲ覆フ片ハ農夫二人半ヲ要ス

人力輾轆

此器ニテ一日ニ雜穀牧草等ヲ撒種シタル四町歩ノ地ヲ鎮壓スル片ハ農夫八人ヲ要ス

畦切鋤

百一

此器ハ通常圃場ノ畦切ニ用ユ馬一頭
農夫一人ニテ一日ニ一町五反歩ヲ整
理ス

三連鋤 (當場ニ於テ工夫ス)

此器ハ畦蒔作物ノ未タ長茂セザル片
ハ畦切ノ用ニ供ス馬一頭農夫一人ニ
テ一日ニ四町歩ヲ整理ス

除草器 原名(カルチベートル)

此器ハ作物ノ畦間除草ニ用ユ馬一頭
農夫一人ニテ一日ニ一町五反歩ヲ整
理ス

收穫兼剪草機 原名(セルフレイキ、リ)

此器ハ大小麥燕麥陸稻其他牧草ヲ刈
り收ムルニ最モ便ナリ一日馬四頭農
夫一人ニテ三町歩ヲ收穫ス

農馬車

四輪箱付馬車ハ穀菜等ヲ遠路ニ運輸
スル便アリ其積載ノ量貳百五十貫目
又乾草ノ如キ容大アルモノヲ運搬ス
ル片ハ函ヲ取外シ之ニ換ユルニ臺ヲ
裝置シ之ニ二百五十貫以上ヲ積載ス
函付貳輪馬車ハ穀菜及肥料等ヲ積卸
スルニ容易ナルト狹隘ナル地ニ於テ
運轉スルノ便アリ此積載ノ量八十貫
以上ナリ棒立二輪馬車ハ重量ナル壓
搾乾草及俵物又ハ水肥等ヲ運搬スル
ニ便ナリ

瀛力脱稈機 原名(スチキム、エンツン、エンド)

此器械ハ本邦ノ麥攪キ連架颯扇ノ三
器ノ作用ヲ兼ルモノニシテ大小麥燕

此器ニテ一日ニ一町五反ノ畦ヲ整理
スル片ハ農夫五人ヲ要ス

全上

此器ニテ四町歩ノ畦ヲ整理スル片ハ
一日ニ農夫十三人ヲ要ス

全上

此器ニテ一町五反ノ畦ヲ整理スル片
ハ一日ニ農夫五人ヲ要ス

麥蒞り鎌

此器ニテ一日ニ三町ノ大小麥ニ燕麥
陸稻其他牧草ヲ刈り收ムルニハ夫夫
十二人ヲ要ス

荷車

大小アレトモ通例農家ニテ用ユル者
ハ農夫一人ニテ貳百五十貫目ノ穀菜
等ヲ積載スル片ハ五車ヲ要ス又貳百
五十貫目ノ乾草ヲ積載スル片ハ八車
ヲ要ス八十貫目ノ穀菜及肥料等ヲ積
載スル片ハ二車ヲ要ス

麥攪キ、連架、颯扇

此三器ヲ併用シテ一日ニ陸稻七十四
石ヲ脱稈スル片ハ農夫八十二人大麥

麥陸稻等ヲ脱稈ス一日ニ農夫八人ニテ陸稻七拾四石大麥ニテハ八拾貳石ヲ脱稈ス

八十二石ヲ脱稈スル片ハ農夫八十二人ヲ要ス

拾頭馬力脱稈器 原名(ランホリスアオルスレ)

全上

此器械ハ一日ニ農夫七人ニテ陸稻五十二石大麥ニテハ六十貳石ヲ脱稈ス

此器ニテ一日ニ陸稻五十貳石ヲ脱稈スル片ハ農夫五十七人大麥六十二石ヲ脱稈スル片ハ農夫六十二人ヲ要ス

濕力乾草壓搾器 原名(スチキムエンジン、エ)

手束子

此器ハ乾草容積ヲ縮小シ能ク養分ヲ保存セシムルノミナラス運搬其他取扱ニ至便ナル他ニ比スヘキモノナシ農夫五人ニテ二千八百八拾貫ヲ壓搾ス

一日ニ貳千八百八十貫ノ乾草ヲ結束スル片ハ脱稈五十人ヲ要ス

馬力穀碎器 原名(グレキン、プレート)

人力穀碎器

此器ハ飼料穀物ノ破碎スル用ニ充ツ

此器ニテ一日ニ大麥十石ヲ破碎スル

馬二頭農夫一人ニテ一日ニ大麥及ヒ玉蜀黍ノ類ハ十石小麥燕麥等ハ此半數ヲ破碎ス又玉蜀黍ヲ穗ノ儘破碎スルニ便アリ

片ハ農夫七人ヲ要ス

切稿器 原名(ストロウカッター)

押切

此器ハ農夫一人ニテ一日ニ八拾貫ノ稿ヲ細切ス

此器ニテ一日ニ八十貫目ノ稿ヲ細切スル片ハ農夫二人ヲ要ス

創業以來本場ニ於テ器械ヲ發明シ或ハ模造シタルヲ少ナシトセザルモ實用ニ至ツテハ甚タ多カラス然レモ其最モ著ナルモノヲ掲ケレハ左ノ如シ

器械ノ模造

四輪農馬車

洋風四輪農馬車ハ遠隔ノ圃場ヨリ根菜収穫又ハ肥料運搬ノ節積卸太々遅緩ナルヲ以テ改造シテ二輪農馬車ノ作用トナスニ頗ル便利ヲ得タリ(元來其二輪置セル箱ト車軸トヲ聯結スルニ螺番ヲ以テシ箱ハ其中心ニアリ故ニ肥料等ヲ卸ストキハ其一端ニ傾倒シタル本體ヲ拔クハ箱直チニ后部ニ傾倒シテ肥料等ヲ等フ一トニ卸ス)

覆土器

該器ハ畦播ニ用ユルモノニシテ畦ノ厚狹覆土ノ深淺自由ニ變換スルヲ得從前ハ人力ヲ以テ被覆セシモ去ル十五年中此ノ器械發明アリシ以來熟圃ニハ都テ之ヲ使用ス此器ハ馬一頭牽ニノ一日平均二町五反歩ノ土ヲ覆フ

百六

集根器

該器ハ從來洋風ノ甚タ重大ナル一馬二輪ノ器械ヲ使用シタルニ其試驗極メテ少ナシ依テ一馬ヲ裝シ手耙ノ如キモノヲ新製ス其價極メテ廉ニシテ作用熱畑ニ適切ナルヲ覺ユ

二連鋤

該器ハ畦溝ヲ穿テ傍ヲ畦線ヲ書スル作用ヲ兼メ從來畫線器ト稱シ單ニ線ヲ地上ニ圖スルモノヲ用ニ後チ單鋤ニテ立畦ス然ルニ該二連鋤ノ始製アリシヨリ全ク畫線器ハ無用ノ器具ニ屬シ單ニ玉蜀黍ニ於テ使用スルノミ亦改

頁ノ一端ト云フハシ

麻馬具

最初牛耕ヨリ馬耕ニ移ル片之ヲ始製ス元來耕馬具ハ都テ革製ノモノヲ使用スルモノナレトモ數十頭ノ羈具ハ都テ革製トナス片ハ費用モ大ナルノミナラス腐敗甚タ早シ茲ニ於テ初メテ麻製ヲ以テ試ミルニ僅カニ二三圓ニシテ一具ヲ調製シ得ヘシ爾來革製ヲ用ユルハ只頸環ノミニシテ餘ハ都テ麻ヲ以テ之ヲ組製シ闔場ノ用ニ供ス亦經濟ノ一端ト云フ可シ

力鏈

力鏈ハ麻馬具始製ノ後ニ鉄製ヲ以テ試ミルニ保存ノ期極メテ永ク且ツ能ク雨濕ニ堪ヘ修繕モ麻製ニ比シ太タ少ナシ亦輕便ノ牽具ナリ
創業ノ節ハ雉子ヲ除クノ外鳥類ノ害アラサリシニ爾後耕地増加整頓セシヨリ鳥害ヲ蒙リ殊ニ明治十二年以來ハ數萬ノ鳥類群襲シ之レガ爲メ作物ノ損害ヲ蒙ル頗ル夥シ依テ先ツ第一被害ノ最モ甚タシキ鳥類ニ對シ其驅除捕獲ノ方法ヲ設ケ雀ハ每羽金貳厘鳥ハ金壹錢ノ割合ヲ以テ手數料トシテ捕獲人ニ給與セリ一ヶ年被害ノ作物豫算金貳百九圓五拾錢害鳥捕獲給與金六拾圓ト定メ差引金百四拾九

百七

圓五拾錢豫防上ノ益金トナルヘキ算定ナルヲ以テ十八年六月マテ實行セリ
 本場土質ノ分析曩年既ニ之レカ實施アリ今其成果ヲ掲クレハ左ノ如シ

土壤分析表

上層		下層	
一有機物及結合水分	二九.〇三	一有機物及結合水分	二四.三五
一砂及不溶解物	四五.五八	一砂及不溶解物	四四.二二
一可溶解硅酸	二	一二第二酸化鉄	一〇.二八
一酸化鉄及礬土	三三.七六	一礬土	一八.一五
一亞酸化滿瓦	〇.八	一滿瓦酸	四.三
一磷酸	一.七	一磷酸	一.六
一炭酸石灰	五.九	一石灰	三.三
一石灰	二.四	一麻偏涅叟亞	四.五
一麻偏涅叟亞	一.六	一剎多亞斯	三.七
一剎多亞斯	四.四	一曹達	一.五

一曹達	四.九	一塩素、硫酸等未詳物	一〇.三
一塩素、硫酸等未詳物	三.五	合計	一〇〇.〇〇
合計	一〇〇.〇〇	合計	一〇〇.〇〇
一有機物中ノ窒素	四.三	一有機物中ノ窒素	四.一
一之ヲ安母尼亞ニ改算スレハ	五.三	一之ヲ安母尼亞ニ改算スレハ	五.〇
一砂中ノ磁酸化鉄	七.九	一砂中ノ磁酸化鉄	五.九

樹林之部

本場ノ樹林ハ元鈔キニアラサリシモ明治三年牧馬ヲ廢シ殖民地トナシ全牧場(元
 香牧ヲ)ヲ開墾會社ヘ下付セラレシヨリ開拓又ハ薪料等ノ爲メ所々散在スル立木ヲ
 伐採シ創業ノ際立木凡五万八千百七本ヲ買入レタリ素ヨリ廣漠タル原野以テ動
 物ヲノ塞ヲ凌キ暑ヲ避ケ又ハ防風ノ便トナスニ足ラス地味モ亦植樹ニ適セサル
 ニアラサルヲ以テ乾草地又ハ動物放牧ノ障害ナラサル土地ヲ撰ミ年々各所ニ栽

植シ既ニ十八年六月ニ至ル十ヶ年ニシテ百四万三千二百九十六本ヲ植付タリ其樹種ハ左表記載ノ如クニシテ成長最モ適當ノモノハ松杉桐櫻木ナリトス然ルニ去ル十六年以降松林中一種ノ害蟲發生シ其驅除ニ盡力セシモ適當ノ方法ヲ得ス大ニ苦慮スル所ナリ

樹木栽植

種類/年度	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	合計
松	29,000 本	13,729 本	67,031 本	18,507 本	8,953 本	4,000 本	66,000 本	12,505 本	56,180 本	59,990 本	687,435 本
杉	17,565 本	6,350 本	6,352 本	3,750 本	2,381 本	1,300 本	3,000 本	6,000 本	14,000 本	5,700 本	100,538 本
桐	7,565 本	3,050 本	2,000 本	3,750 本	7,072 本	1,300 本	3,000 本	6,000 本	14,000 本	1,950 本	337,937 本
楡	5 本	5 本	5 本	5 本	5 本	5 本	5 本	5 本	5 本	5 本	55 本
櫻	7 本	3,011 本	2,000 本	4 本	1,100 本	3,000 本	1,100 本	1,100 本	1,100 本	1,000 本	5,011 本
楮	6,000 本	6,000 本	6,000 本	6,000 本	6,000 本	6,000 本	6,000 本	6,000 本	6,000 本	6,000 本	13,000 本
竹	1,127 本	160 本	300 本	300 本	150 本	150 本	150 本	150 本	150 本	150 本	1,827 本
桐	1,000 本	800 本	800 本	800 本	800 本	800 本	800 本	800 本	800 本	800 本	1,000 本

明治十七年現在樹林地反別左ノ如シ

樹林地反別	通計	棟	アカシヤ	落葉松
樹林地二百九拾町九反歩	54,853.106.550.770.031.252.335.180.127.5,300.126,500.18,955.62,830.68,833.104,329.6			51
			3,000.22,600.401.3,331.1	
		2,400.82.2,482.		

樹林地反別

地目	段別
樹林地	地二百九拾町九反歩

人員之部

創業以來官吏牧場ニ出入并明治十八年六月宮内省へ轉轄ノ際在勤官吏及ヒ牧夫ノ現員配置左ノ如シ

現在人員

明治九年六月入場	農商務權少書記官	波多野	尹政
同	農商務三等屬	宮岡	正吉
同十四年七月入場	同 四等屬	中山	安乘
同九年一月入場	同 五等屬	直井	正恒
同十年一月入場	同	辻	正章
同九年六月入場	同 六等屬	石澤	龍尾
同十一年十二月入場	同	桂	彌市
全十八年一月入場	同	濱田	新之丞
同十一年四月入場	農商務七等屬	安田	利次郎
同十三年十二月入場	同 八等屬	三浦	吉堯
同十二年十二月入場	同	鈴木	美清
同十三年一月入場	同	早川	茂一
同十五年八月入場	同 九等屬	近藤	信吉
同十一年一月入場	同 御用掛	瑞	修次

同十六年四月入場	農務局雇	安波	虎吉
同十一年十二月入場	同	田邊	安信
同十二年八月入場	同	松村	龜吉
同十三年十二月入場	同	林	駒吉
同十七年十月入場	同	佐々木	義郎
同年十一月入場	同	松本	總之助
同十六年四月入場	同	高田	壽次郎
同十三年五月入場	同	池袋	良知
同十六年十月入場	同	大野	有草
同十五年十二月入場	同	蘆澤	政恒
同十七年八月入場	同	島崎	房五郎
同十三年九月入場	同	伊集院	兼孝
同十二年十二月入場	同	粕谷	音安
同九年六月入場	同	新村	直右衛門
同十三年九月入場	同	岩山	直隆

同十七年十一月入場
同十八年六月入場

參十一人
以上分掌左々
事務廳

同 二ノ宮 時晴
同 野崎 善熊

下總種畜場長同場會計主務

農商務權少書記官 波多野 尹 政

庶務掛

兼育牛馬羊耕耘樹林總括

農商務三等屬 宮岡 正吉

兼財產會計掛

同 五等屬 直井 正恒

兼財產會計掛

同 六等屬 石澤 龍尾

兼財產會計掛

同 七等屬 安田 利次郎

兼財產會計掛

會計掛

農商務四等屬 中山 安乘

兼財產會計掛

同 八等屬 三浦 吉堯

兼庶務掛

同

同 九等屬 近藤 信吉

衛生掛(人醫)

農務局雇 安波 虎吉

會計附屬

種畜場雇 金子 錦兵衛

小使 松本 長太郎

同 糸川 源助

機關職工 小野 嘉吉

木工 寺井 鐵五郎

乘馬厩附屬

種畜場雇 市川 敬次郎

六等給牧夫 新井 文藏

十六人

三里塚區分廳詰

牧監

兼育牛總括育羊耕耘樹林會計掛 農商務六等屬

育馬掛

兼衛生掛

農商務御用掛

兼調馬掛

農務局雇

同

同

同

同

兼調馬衛生掛

同

兼調馬掛

同

育牛掛

農務局雇

同

耕耘掛

農務局雇

兼育馬掛

農務局雇

畜馬附屬

桂 彌 市

瑠 修 次

田 邊 安 信

松 村 龜 吉

林 駒 吉

佐々木 義 郎

松 本 總 之 助

高 田 壽 次 郎

池 袋 良 知

大 野 有 草

蘆 澤 政 恒

種畜場雇

同

三等給牧夫

同

四等給牧夫

同

六等給牧夫

同

七等給牧夫

同

八等給牧夫

同

十等給牧夫

種畜場雇

出 山 政 五 郎

島 野 新 三 郎

名 古 屋 卓 三

松 尾 三 藏

大 谷 榮 助

長 谷 川 政 吉

山 岡 幸 吉

金 高 佐 七

持 田 仲

藤 平 要 藏

鎗 田 喜 三 郎

福 田 傳 吉

木 村 城 之 助

眞 島 誠 之 助

耕耘附屬

同	與野	鐮吉
三等給牧夫	爪生	源左衛門
同	野老	貞助
四等給牧夫	管野	善次郎
七等給牧夫	小川	熊吉
八等給牧夫	黑田	正信
種畜場雇	山口	定次郎
同	長谷川	又藏
二等給牧夫	糸川	宗十郎
同	齊藤	喜三郎
四等給牧夫	綿貫	留吉
五等給牧夫	山田	富藏
同	川津	春吉
六等給牧夫	東郷	兵右衛門

調馬附屬

同	吉田	半平
同	木内	伊左衛門
同	眞城	城一
同	石川	正司
同	横山	勘四郎
九等給牧夫	小野	己之助
同	松井	伊三
同	大木	保太郎
十等給牧夫	細川	貞次
同	土屋	彌助
同	小川	伊助
種畜場雇	安田	松五郎
六等給牧夫	平山	元之助
七等給牧夫	内田	伊助

同
九等給牧夫 田中 吉五郎
十等給牧夫 岩淵 善藏
同 皆川 登能衛
同 中島 臺五郎

五十七人

兩國區分廳詰
牧監

兼育馬羊耕耘樹林會計掛 濱田 新之丞
副牧監兼育羊總括育牛耕耘會計掛同 八等屬 鈴木 美清

兼衛生掛 農務局雇 島崎 房五郎
同 野崎 善熊

耕耘掛

兼育羊掛 農務局雇 伊集院 兼孝
育羊附屬

百二十一

種畜場雇 田邊 勇作
三等給牧夫 古川 千代吉
六等給牧夫 渡邊 清太郎
八等給牧夫 平井 紀一
十等給牧夫 菊田 京三郎

育馬附屬

三等給牧夫 柳下 與八郎
五等給牧夫 山田 嘉兵衛
六等給牧夫 小川 新助
七等給牧夫 坂本 金太郎
八等給牧夫 福田 良助

耕耘附屬

種畜場雇 藤田 千代吉
一等給牧夫 大槻 榮藏
五等給牧夫 内田 常次郎

百二十一

七等給牧夫 石井善藏
 同 山先喜兵衛
 同 山田角次郎
 八等給牧夫 昆野喜四郎
 十等給牧夫 齊藤源七
 同 加瀬多左衛門
 同 小川安太郎

二十四人

駒之頭區分廳詰
牧監

兼育羊總括耕耘樹林育牛馬財產會計掛 農商務五等屬

育羊掛

兼衛生掛

農務局雇

耕耘掛

兼育羊掛

農務局雇

辻 正章
 粕谷音安
 新村直右衛門

育羊附屬

種畜場雇

全

五等給牧夫 笠原甚太
 八等給牧夫 石井忠次
 十等給牧夫 伊丹初太郎

育馬附屬

種畜場雇

五等給牧夫 山田忠兵衛

耕耘附屬

種畜場雇

五等給牧夫 大森金藏

七等給牧夫 林立八十二

同 森川小輔

十等給牧夫 石川德次郎

同

鬼島喜三郎

同

布施和藤次

同

飯高金太郎

十八人

猪之頭區分廳詰

副牧監

兼育羊總括育馬耕耘樹林會計掛 農商務八等屬

早川茂一

耕耘掛

兼育羊掛

農務局雇

岩山直隆

同

同

二ノ宮時晴

育羊附屬

種畜場雇

新屋錄次

二等給牧夫

熊井德忠

五等給牧夫

渡邊佐太郎

同

本間清明

六等給牧夫

武井俊太郎

七等給牧夫

猿山善太郎

育馬附屬

六等給牧夫

土屋治兵衛

耕耘附屬

種畜場雇

杉田種吉

二等給牧夫

戶村市太郎

四等給牧夫

下野金助

同

吉田八右衛門

同

岩澤勇三

五等給牧夫

新屋銀吉

八等給牧夫

石井勝太郎

同

布施虎三

同

樽郡司

十九人

三千七百八十五圓七十八錢壹厘收入金十七萬二千五百五十七圓三十七錢七厘差引不足金八十八万二千二百二十八圓四十錢四厘ニシテ實ニ巨額ノ失費ナリト雖トモ之レカ爲メ勸奨ノ効果ヲ致セシハ甚タ尠カラサルベシ又十五年度以降七ヶ年間ニ於テ經濟ヲ整理シ收入金ハ直ニ經費ニ移用ノ之ヲ運轉使用シ國庫ノ支出ヲ遞減シ遂ニ廿一年度ヲ期シ全ク收入ノミヲ以テ維持セントセシモ翌十六年五月ニ至リ物價ニ非常ナル變動ヲ生シ殊ニ牛馬ノ如キハ價格殆ント三分ノ二ヲ減シ維持上困難堪ヘカタク以テ從前ノ如ク通常經費ニ變換ノヲテ上請裁可ヲ得タリ其毎年度經濟支出計算左ノ如シ

獨立經濟收支總括

年	稱	年度ノ初一時ニ國庫ヨリ支出金	種畜場雜收入	小計	拂	高準	備補	欠
十五年	年度	三萬八千	三萬六千	七萬四千	六萬三千八百圓	一萬九百四圓		
十六年	年度	三萬五千	三萬六千	七萬二千	六萬三千八百圓	八千四百十七圓		
十七年	年度	二萬三千	三萬九千	六萬二千	六萬三千八百圓			九十圓
十八年	年度	一萬五千	四萬三千圓	五萬八千	六萬三千八百圓			四千九百六十圓

十九年度	九千九百五十圓	四萬七千圓	五萬六千九百五十圓	六萬三千八百圓	六千八百五十圓
二十年	五千八百二十九圓	五萬五千五百圓	五萬七千三百二十九圓	六萬三千八百圓	六千四百七十一圓
廿一年	五萬五千二百圓	五萬五千	五萬五千二百圓	六萬三千八百圓	八千六百圓
廿二年	六萬三千八百圓	六萬三千	六萬三千八百圓	六萬三千八百圓	

明治八年六月以降毎年度實収支ノ金額左ノ如シ

自明治八年六月至十二年度實收支

科	目	收	入	支	出	差引益。損
官吏	俸給		三万六千二百二十二圓	八十五錢六厘	三万六千二百二十二圓	八十五錢六厘
外國人	雇入中月給旅費		六万三千九百四十二圓	八十一錢三厘	六万三千九百四十二圓	八十一錢三厘
官吏	外國行旅費		一万六千八百九十四圓	八十二錢五厘	一万六千八百九十四圓	八十二錢五厘
官吏	雇內國旅費		七千七百五十九圓四十錢		七千七百五十九圓四十錢	
廳中費	及接待費		九千四十一圓五十四錢一厘		九千四十一圓五十四錢一厘	
小使	給料及宿直膳料賃與金賜餼料ノ類		三千十八圓六十一錢四厘		三千十八圓六十一錢四厘	

牧羊生徒徵集中費		二万八千三百六十七圓	五十錢一厘	二万八千三百六十七圓	五十錢一厘
動物買入及畜養費		三十七萬六千五百二圓	二十二錢六厘	三十七萬六千五百二圓	二十二錢六厘
野犬取締費耕種費		十九萬千十二圓九十二錢	九厘	十九萬千十二圓九十二錢	九厘
地所買入及營繕費		三千八百二十六圓		三千八百二十六圓	
千葉縣ヨリ巡査派出諸費		四萬二千三百九十四圓	五十一錢八厘	四萬二千三百九十四圓	五十一錢八厘
物品拂下代	九千八百九十八圓			九千八百九十八圓	
家屋貸與料	六十一圓一錢九厘			六十一圓一錢九厘	
雜	五萬二千三百五十三圓	七十三萬六千四百八十八圓	七十一錢五厘	六十八萬四千三百三十四圓	七十一錢九厘
計	九十八錢六厘	九十八錢六厘		九十八錢六厘	

備考

明治八年六月ヨリ十二年度ニ至ルノ収支ハ毎年度ノ収支瞭然ナラサルヲ以テ八年ヨリ十七年度迄十ヶ年間収支合計金額ヨリ十三年度以降ノ収支金額ヲ差引本表ニ掲ケタル者ナリ而シテ十三年度以降十七年度ニ至ルノ分ハ各科目及經費ノ入狂ヒナク明確ナルヲ以テ毎年度収支ヲ差引損失ヲ明示セリ

明治十三年度實収支

科目	目	収	入	支	出	差引益	損
雇外國人俸給				千二百圓		千二百圓	
雜	給			千六十九圓四十七錢四厘		千六十九圓四十七錢四厘	
應	費			九百四十四圓三錢二厘		九百四十四圓三錢二厘	
育	羊費			七千七十一圓		七千七十一圓	
育	牛費			三千八百四圓		三千八百四圓	
育	馬調馬費			一萬二百八圓		一萬二百八圓	
耕	耘開墾費			二萬七千四百九十圓		二萬七千四百九十圓	
樹	木費			二百八圓六十錢四厘		二百八圓六十錢四厘	
製	造費			三百五十九圓		三百五十九圓	
野	犬取締費			三十圓九十八錢三厘		三十圓九十八錢三厘	
營	繕費			一萬三千五百四圓		一萬三千五百四圓	
計				六萬五千八百九十二圓		六萬五千八百九十二圓	
				九十六錢八厘		九十六錢八厘	

本年度中ニ俸給支出及収入金ノ掲載ナキハ前表八年ヨリ十二年度迄ノ内
 加算シタルモ本年度ノ収支金額明確セサルヲ以テ之ヲ扣除セス其判明セ
 シ科目ノミヲ本年度ニ掲記セリ

明治十四年實収支

科目	目	収	入	支	出	差引	益	損
俸給			八千五百八十三圓		二十七錢	八千五百八十三圓	二十七錢	
雜給			二千三百四十八圓		三十七錢六厘	二千三百四十八圓	三十七錢六厘	
應給			千三百八十圓		五十八錢五厘	千三百八十圓	五十八錢五厘	
營繕費			四千四百五十五圓		九十一錢九厘	四千四百五十五圓	九十一錢九厘	
育羊費			三千八百四十七圓		十三錢一厘	三千八百四十七圓	十三錢一厘	
育牛費			三千三百八十八圓		六十七錢八厘	三千三百八十八圓	六十七錢八厘	
育馬調馬費			六千四百二十三圓		七十六錢三厘	六千四百二十三圓	七十六錢三厘	
耕耘開墾費			二萬六千三百九十四圓		九十七錢四厘	二萬六千三百九十四圓	九十七錢四厘	
計			五萬九千三百四十二圓		六十一錢九厘	五萬九千三百四十二圓	六十一錢九厘	

科目	目	収	入	支	出	差引	益	損
獸醫費				千六百四十四圓七十錢八厘		千六百四十四圓七十錢八厘		
樹木費				七百四十六圓	八十七錢二厘	七百四十六圓	八十七錢二厘	
鐘詰及製造費				六百七圓九十錢八厘		六百七圓九十錢八厘		
野犬取締費				百圓四十三錢五厘		百圓四十三錢五厘		
物品拂下代		一萬五千二百四十四錢				一萬五千二百四十四錢		
計		一萬五千二百四十四錢		五萬九千三百四十二圓	六十一錢九厘	四萬四千三百四十圓	十七錢九厘	

明治十五年度實収支

科目	目	収	入	支	出	差引	益	損
俸給			七千三百四十二圓		二十八錢	七千三百四十二圓	二十八錢	
雜給			二千二百六拾四圓		七十九錢二厘	二千二百六拾四圓	七十九錢二厘	
廳費			千二百九拾八圓		三拾二錢九厘	千二百九拾八圓	三拾二錢九厘	
營繕費			二千三百三十五圓		四拾二錢六厘	二千三百三十五圓	四拾二錢六厘	
育羊費			九千二百四拾六圓		五拾七錢四厘	九千二百四拾六圓	五拾七錢四厘	
計			一萬五千二百四十四錢		六十一錢九厘	一萬五千二百四十四錢	六十一錢九厘	

科目	目	收	入	支	出	差引益	損
育牛費				三千九百九圓五十錢六厘			
育馬調馬費				九千五百六十六圓一錢四厘			
耕耘費				一万九千九百五十一圓八十五錢			
樹木費				七百二十四圓六十一錢三厘			
鑛詰製造費				九十五圓三十五錢			
野犬取締費				五十七圓六十五錢五厘			
物品拂下代		三万三千百九十七圓二十三錢一厘				三万三千百九十七圓二十三錢一厘	
雜收		五百二十二圓五十錢				五百二十二圓五十錢	
計		三万三千七百十九圓七十三錢一厘		五萬六千七百九十二圓三十八錢九厘		二萬三千七十二圓六十五錢八厘	

明治十六年度實收支

科目	目	收	入	支	出	差引益	損
營繕費				千七十圓六十五錢五厘			
育羊費				七千二百九十六圓十九錢八厘			
育牛費				九千十三圓三十六錢五厘			
育馬調馬費				四千八百八十五圓一錢一厘			
耕耘費				一万六千四百九十四圓十九錢五厘			
樹木費				二萬三千四百四十五圓十一錢			
鑛詰製造費				九百七十六圓二十一錢六厘			
野犬取締費				九十六圓四十錢四厘			
時貸交換ノ差減				九百四十圓三十一錢九厘			
補充金				百七十八圓八十錢			
家屋貸下料				一萬九百四圓			
物品拂下代		三萬九千七十七圓五十二錢七厘				三萬九千七十七圓五十二錢七厘	
雜收		二萬四千四十三圓三十錢一厘				二萬四千四十三圓三十錢一厘	

科目	目	收	入	支	出	差引益	損
應費				千七十圓六十五錢五厘			
營繕費				七千二百九十六圓十九錢八厘			
育羊費				九千十三圓三十六錢五厘			
育牛費				四千八百八十五圓一錢一厘			
育馬調馬費				一万六千四百九十四圓十九錢五厘			
耕耘費				二萬三千四百四十五圓十一錢			
樹木費				九百七十六圓二十一錢六厘			
鑛詰製造費				九十六圓四十錢四厘			
野犬取締費				九百四十圓三十一錢九厘			
時貸交換ノ差減				百七十八圓八十錢			
補充金				一萬九百四圓			
家屋貸下料				百四十二圓五十錢二厘			
物品拂下代		三萬九千七十七圓五十二錢七厘				三萬九千七十七圓五十二錢七厘	
雜收		二萬四千四十三圓三十錢一厘				二萬四千四十三圓三十錢一厘	

明治十七年度實收支

科目	目	収	入	支	出	差引益。損
俸	給			一萬七百八十圓十一錢		一萬七百八十圓十一錢
雜	給			二千九百三十七圓		二千九百三十七圓
應	費			千九十五圓		千九十五圓九十六錢六厘
營	繕			四千五百五十九圓三十八錢		四千五百五十九圓三十八錢
育	羊			三千三百八十八圓		三千三百八十八圓
育	牛			二千三百八十三圓		二千三百八十三圓
育	馬調馬費			八千六百八拾圓		八千六百八拾圓拾六錢二厘
耕	耘			一万九百九拾六圓		一万九百九拾六圓三拾三錢
樹	木			二百五拾圓三拾六錢九厘		二百五拾圓三拾六錢九厘
鐘	詰製造費			六十二圓拾二錢一厘		六十二圓拾二錢一厘
計		六萬三千二百六十三圓	八萬七千二百六圓	二萬三千九百四十二圓	八十七錢八厘	

野犬取締費		六百四十四圓	九十一錢三厘	六百四拾四圓九拾一錢三厘		
嶺岡牧場諸買入費		千七百六拾四圓	五拾一錢八厘	千七百六十四圓	五拾一錢八厘	
家屋貸下料	百五拾二圓二錢一厘			百五拾二圓二錢一厘		
物品拂下代	八千六拾五圓 八拾六錢九厘			八千六拾五圓八拾六錢九厘		
計	八千二百十七圓八拾九錢	四万八千六拾二圓	八拾九錢二厘	三萬九千八百四拾五圓二厘		

第三期

總說

明治十八年六月本場ヲ 帝室ノ御料ニ採収セラル、ニ及ンテ始メテ宮内省ニ屬ス地積三千五百拾七町七反九畝廿二歩ニシテ十九年二月御料局ノ主管ニ附セラレ後チ下總種畜場ヲ御料局高堀出張所又ハ御料局印旛出張所ト改稱ス

宮内省ニ轉轄ノ當時ハ專ラ牛馬羊ヲ蕃殖シ定備ヲ置キ他ハ總テ農商務省ヘ貸與シ各府縣ノ需用ニ應シ其餘レルモノハ隨時賣拂ヒ而シテ耕地ノ内最モ熟畑ヘ牧草ヲ播種シ穀菜地ハ漸次新墾擴張ヲ謀ラントセリ御料局ノ管理スル所トナリテヨリ專ラ耕耘事業ヲ主トシ牧畜ノ事業ハ之レカ從タリ其耕耘事業ヲ擴張スルト全時ニ多數ノ定農夫ヲ傭ヒ入レ七ヶ年勤續ノ者ニハ住家ヲ與ヘテ土着セシメ其子孫ハ世襲農夫ニ爲サント計圖セリ

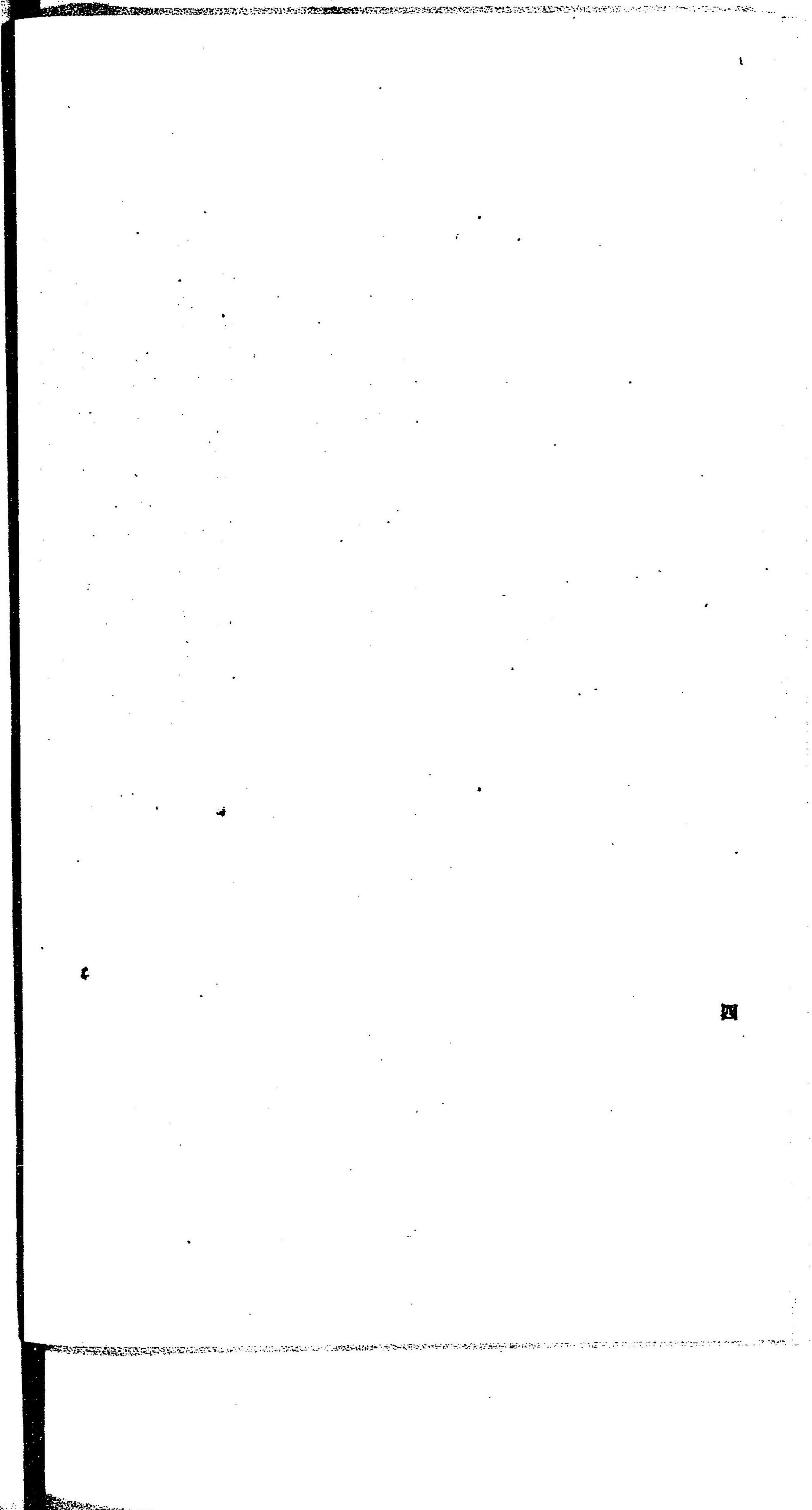
穀菜ノ肥料ニハ牛馬羊糞堆肥ノ外糠灰等ノ肥料ヲ交混シテ之ヲ施シ來タルニ明治廿年以降交混肥料ヲ廢シ單ニ牛馬羊糞ノミノ堆肥ヲ施シ大ニ収穫ヲ得ントセシモ牧場ノ土質輕鬆ノ黑壤ナルヲ以テ結果宜シキヲ得ス主馬寮主管ニ附セラレテヨリ之ヲ舊ニ復セリ

明治十九年四月駒之頭區地積九百九拾四町九反六畝十五步及ヒ動物家屋器具共悉皆農商務省へ貸與ス廿一年三月ニ至リ全省ヨリ返付トナリ其後子各區ト全一ノ事業ヲ施行シ來タリ明治十九年二月宮内權少書記官所長波多野尹政非職トナリ後子出張所在勤員三等屬宮岡正吉所長ニ補セラル全年十一月ニ至リ宮岡所長ハ本局詰トナリ五等技師勝野源八郎之ニ交リ其後子ヲ繼キ所長タリ全廿一年十月主馬寮轉轄ノ際所長ヲ免セラレ本局ニ歸レリ

明治十九年四月兩國區ヲ猪之頭區ニ合併シ更ニ場内ヲ三里塚區猪之頭區駒之頭區ノ三區別トス全廿一年一月猪之頭ヲ印旆第一御料地兩國ヲ印旆第二御料地三里塚ヲ下殖生第一御料地駒之頭ヲ下殖生第二御料地ト改稱ス
明治十九年四月舊來放飼ノ野產馬ハ体格矮少改良上遲緩ナルヲ以テ終ニ之ヲ廢止スル事ニ決シ全年六月悉ク捕獲シ全ク拂下處分ヲ完了セリ
樹木栽植ノ總數五拾萬三千四百貳拾三本竹千五百本ニシテ防風林トシ或ハ用材林トシテ植付ヲ爲セリ

明治廿年度ニ於テ別途營繕費金壹萬貳千九百十圓ノ下渡ヲ請求シ農夫舍及ヒ穀物貯藏板庫ヲ新築シ其他各舍模様替等營繕ヲ爲シタルモノ殆ント五十餘棟ノ多キニ達セリ而シテ其起業之方針タル耕耘事業ヲ擴張シ多數ノ定農夫ヲ置キ以テ本場ヲ維持セントスルニアリ
耕地家屋等ノ風災ハ年々歳々多少免カレサル事ハ常ナリシモ明治十九年ハ春來降雨稀少夏季ニ至リ井水過半枯渴シ殆ント人畜ノ飲料ニ欠乏ヲ告ケタリキ如此早魃ハ本場創業以來未曾有ノ事ニシテ其困難實ニ名狀スヘカラス
明治廿年三月増員巡查五人ヲ廢シ更ニ二人トシ三里塚區駒之頭區ニ各一人ヲ配置シ從前ノ如ク專ラ兩國分署ノ所轄トス

明治廿一年十月ヨリ牧畜耕耘事業并東京府下南豊島第二御料地牛乳搾取調進ノ事務モ全時主馬寮管理ニ付セラレ度旨上請相濟全月四日全ク事業受渡ヲ完了セリ



欠

MISSING

育羊之部

本期中緬羊ハ他ヨリ購入セシモノ更ニナク明治十九年四月中農商務省へ貸與ノ緬羊返付ヲ受ケタルモノ四百七頭其種類ヲ區別スルキハ左ノ如シ

緬羊牽入

年次	牝牡		種類	計
	牝	牡		
二十一年	二五六、	四四、	メリノ一種	三五七、
	七、	六、	サウスダオン種	
			雜種	九四、

緬羊ノ蕃殖ハ年々六百頭内外ニシテ三ヶ年間ノ頭數千八百六拾五頭即チ年別種類ヲ區別スレハ左表ノ如シ

緬羊生産

年次	牝牡		種類	計
	牝	牡		
十九年	三三六、	二九九、	メリノ一種	三六四、
	三、	一六、	サウスダオン種	
			雜種	二五、

合 計	二十一年		二十年	
	牝	牡	牝	牡
牝	八七五、	七八九、	二四七、	二四八、
牡	九、	八、	四、	六、
合計	一〇二、	八二、	五三、	三九、
合計	九八六、	八七九、	三〇四、	二九三、

十九年中地所貸渡ト全時ニ農商務省へ貸與セシ數千頭ナリ其種類左ノ如シ

緬羊貸與

十九年	年 次		種 小 計
	牝	牡	
牝	七二八、	一八〇、	種 小 計
牡	五、	三、	種 小 計
合計	八四、	一八三、	種 小 計

緬羊ノ賣却ハ専ラ肉羊トシテ拂下タルモノニテ其内メリノ一種ハ蕃殖用ニ拂渡シタルモノアレバ頭數僅少ナリ今左ニ頭數及ヒ價格平均ヲ掲記ス

緬羊賣却
メリノ一種

年 次	十八年		十九年		二十年		二十一年		合 計
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	
牝	〇、	一三三、	八八、	三四七、	一五、	三九八、	四〇二、	一、二六一、	五〇五、
牡	〇、	〇、	〇、	三三九、 ^円 八三三	二二三、 ^円 八六五	四〇一、 ^円 七〇六	六七八、 ^円 〇八六	七四一、 ^円 五三九	七〇一、 ^円 九五二
合計	〇、	一三三、	八八、	三三九、 ^円 八三三	二二三、 ^円 八六五	四〇一、 ^円 七〇六	六七八、 ^円 〇八六	七四一、 ^円 五三九	七〇一、 ^円 九五二
平均一頭代價	〇、	〇、	〇、	〇、 ^円 九七九	一、 ^円 五九一	一、〇〇九	一、 ^円 六八七	〇、 ^円 九九五	一、 ^円 六八三
摘 要	代價不詳 百拾貳頭	代價不詳 內劔三百六拾九頭	代價不詳	劔三百貳拾九頭		劔貳百八拾九頭		五百拾六頭代價不詳	八拾八頭代價不詳

サウスダオン種

年次	サウスダオン種		合計
	牝	牡	
二十年	二、	二、	四、〇〇〇
二十一年	二、	二、	六、〇〇〇
合計	四、〇〇〇	四、〇〇〇	八、〇〇〇

雜種

年次	雜種		合計
	牝	牡	
十八年	一〇、	一〇、	二〇、
十九年	五七、	五七、	一一四、
二十年	一九、	一九、	三八、
二十一年	一七、	一七、	三四、
合計	一〇、	一〇、	二〇、

綿羊ハ年々三四百頭ノ斃死アリテ畜養頭數ニ對スレハ二割以上ニ當リ頗ル大キ
 ヲ極メタリ本期中ノ斃死千七百五十七頭病因ハ肺寄生蟲、胃蟲、肝臟病等最モ多シ
 即チ左表ノ如シ

斃羊頭數

年次	サウスダオン種		雜種		合計
	牝	牡	牝	牡	
十八年	一一五、	一一五、	一〇、	一〇、	二三〇、
十九年	二二一、	二二一、	一八、	一八、	四四〇、
二十年	三三〇、	三三〇、	一一、	一一、	六六二、
二十一年	二九九、	二九九、	一三、	一三、	六一一、
合計	一三六、	一三六、	四七、	四七、	二二〇、

合計	牝	七四二、	八、	三一、	七八一、
	牝	八八一、	一〇、	八五、	九七六、

綿羊一日飼料ノ分量ハ廿年一月中ノ調ニ依レハ一ケ年平均飼料左表ノ如シ

綿羊飼養分量

種別	大	麥	玉蜀黍	穀	燕	菁	鹽	乾牧草	野乾草			
二歲以上	三	夕	三	夕	六	夕	百六十目	五	歲	四十目	八十目	
牝二歲以上	二合	三	夕	三	夕	六	夕	二百八十目	五	歲	四十目	八十目
其種牝交尾中及前尾中后	四	夕			六	夕	百	目	四	歲	二十目	六十目

備考

本表ノ飼料ハ強壯ノモノニ與フル分量ナルヲ以テ羊群ノ景況ニ應シ穀菜ヲ交換増減スルモノトス

更ニ前表ノ飼料ニ就キ廿年中ノ相場ニ照シ費額ヲ算出スルハ左ノ如シ

綿羊飼料費

種別	一日一頭飼料費	一ケ月一頭飼料費	一ケ年一頭飼料費
二歲以上	三厘七毛四三六	十壹錢二厘三毛〇八	壹圓三十六錢六厘四毛一四
牝二歲以上	六厘五毛九三六	十九錢七厘八毛〇八	二圓四十錢六厘六毛六四
其種牝交尾中及前尾中后	二厘六毛七五六	八錢二毛六八	九十七錢六厘五毛八四

備考

本表飼料算出ノ相場ハ大麥玉蜀黍一石ニ付金二圓穀一石ニ付一圓二十三錢壹厘燕菁十貫目六錢二厘五毛盪一升一錢三厘乾牧草十貫目十錢野乾草十貫目四錢五厘トス以下皆之ニ全シ

綿羊ハ毛ノ收入ヲ以テ育羊費ノ經濟ヲ立ルヲ目的トス今二十一年剪毛ノ収量ヲ掲クレハ左ノ如シ

剪毛収量

剪毛頭數	剪毛總収量	平均一頭剪毛
千九百九十六頭	九千八百七十三磅	四磅九分四六三

備考

本表頭數ノ内斃死セシ剥皮ヲ一枚一頭ニ積算即チ三百三枚加算セリ而シテ當時羊毛一磅ノ相場ハ平均金二十七錢ニシテ一頭剪毛量ニ乘算スルトキハ一ケ年金一圓三十三錢五厘五毛〇一ノ収入金ナリトス
育羊ニ關スル官吏俸給雇給家屋器具飼料費等一切ノ費用ヲ加へ綿羊一頭ニ對スル費額ハ二十一年ニ於テ平均左表ノ如ク要セリ

綿羊養費

羊	一日失費	一ケ月失費	一ケ年失費
一頭	五厘二毛〇五	十五錢六厘一毛五	一圓八十九錢九厘八毛二五

明治廿一年九月三十日現在羊及ヒ護羊犬頭數左ノ如シ

羊頭數

種類	牡	牝	小	計
メリノ種	四二九、	一、二四六、	一、六七五、	
サウスタオン種	一五、	一九、	三四、	

雜費	七、	二二三、	二三〇、
通計	四五二、	一、四八八、	一、九三九、

護羊犬頭數

雜類	牡	牝	小	計
西班牙種	七、	一〇、	一七、	
通計	七、	一〇、	一七、	

育馬之部

明治十八年六月 帝室ノ御料ニ採収セラレタル當時ハ專ラ牧畜ノ盛大ヲ計セシモ後チ十九年末ニ至リ方針一轉シテ專ラ耕耘事業ヲ主トシ牧畜事業ハ之レヲ附從タラシメタリ故ニ本期中馬匹ヲ輸入セシマナク單ニ十九年中農商務省へ貸與馬匹ノ返還ヲ受ケ牽入ヲ爲シタルニ止マレリ則チ左ノ如シ

馬牽入

洋種

年次	雑種		合計
	牝	牡	
二十一年	八	五	十三
平均一頭代價			
摘	農商務省ヨリ返付		

十二

年次	内國種		合計
	牝	牡	
二十一年	四	三	七
平均一頭代價			
摘	農商務省ヨリ返付		

年次	内國種		合計
	牝	牡	
二十一年	一	三	四
平均一頭代價			
摘	農商務省ヨリ返付		

十八年六月ハ既ニ馬匹生産終了ヲ告タルヲ以テ十九年以降二十一年ニ至ルニケ年開産出ノ種類頭數左表ノ如シ

馬生産

年次	洋種		三回雜種		二回雜種		一回雜種		退却雜種	小計
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡		
十九年	三	四	一	三	一	一	一	一	一	三六
二十年	三	四	一	三	一	一	一	一	一	三五
二十一年	六	七	一	四	一	一	一	一	一	三九
合計	一五	一五	三	一五	三	三	三	三	三	一〇三

備考

一回以下雜種ハ退却一回半雜種ハ二回ミユール種ハ一回雜種ノ部ニ編入ス
 明治十八年及ヒ十九年ノ始メニ於テハ種畜トシテ農商務省等へ貸與セシモ爾來
 法規ノ許ナ、ル所トナリ之ヲ止メタリ今貸與ノ頭數ヲ掲クレハ左ノ如シ

十三

年次	十八年		十九年		二十年		二十一年		合計	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
頭數	七	一四	二	一四	二	一四	一七	一七	一六	五二
總代價	一、一四六、〇〇〇	九六八、七五〇	一一五、〇〇〇	九六八、七五〇	一二五、〇〇〇	一、〇七〇、〇〇〇	一、三二〇、〇〇〇	一、〇六九、〇〇〇	一、三〇九、〇〇〇	五、二、五〇〇
平均一頭代價	一六三、七一四	六九、一九六	五七、五〇〇	六九、一九六	六二、五〇〇	一四七、八五七	一八八、二三五	九八、〇八三	八一、八一三	一〇、五〇〇
摘	野産二分五厘 雜種一頭									
要										

内國種

年次	十八年	
	牝	牡
頭數	五	五
總代價	五二、五〇〇	五二、五〇〇
平均一頭代價	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇
摘		
要		

年次	十九年		二十年		二十一年		合計	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
頭數	五七	四四	一五	四	二四	五	八六	七一
總代價	六六一、二〇〇	四〇三、七〇〇	一六一、〇〇〇	八五、〇〇〇	三九三、五〇〇	六八、〇〇〇	九八八、四五〇	八六六、七〇〇
平均一頭代價	一一、六〇〇	九、一七五	一一、七三三	二一、二五〇	一六、三九六	一三、六〇〇	一一、四九四	一二、二〇七
摘	本場野産四十一頭 其他奥州種 全二十五頭 其他奥州種							
要								

馬ノ斃死ハ四ヶ年間ニ拾七頭ニシテ其種類年別ヲ爲ス片ハ左表ノ如シ
斃馬頭數

洋種	年次		合計
	牝	牡	
種	十八年	十九年	二十一年
	一、	一、	二、

合計	内國種		一回雜種		二回雜種		三回雜種	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
三、	二、	二、	一、	一、		一、		
三、	三、	二、	一、	一、		一、		
八、	一、	四、		二、		一、		一、
二、	五、	一、		二、		一、	二、	一、
一六、	一一、	九、	二、	四、	二、	二、	四、	一、

別表斃死ノ頭數ニ就キ其病因ヲ類別スルルハ左ノ如シ
斃馬病類表

系統 病類	牝		牡		小計	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡
十八年	三、	二、	二、	一、	五、	三、
十九年	三、	三、	二、	一、	六、	四、
二十年	八、	一、	四、		一二、	一、
二十一年	二、	五、	一、		七、	五、
小計	一六、	一一、	九、	二、	二五、	一六、

合計	傳染病	神経系病		運動器病	循環器病	呼吸器病	消化器病					
		強直症	脊髄癆				骨析	心臓炎	肺炎	寄生性胃炎	腸炎	肝臓炎
〇	三、		一、					一、			一、	
二、	〇	一、				一、						
〇	三、	一、		一、		一、						
三、	〇	一、		一、				一、				
〇	八				二、	三、		一、	二、			
一、	〇							一、				
〇	二、	一、		一、								
五、	〇				一、	一、		三、				
一一、	一六、	二、	二、	三、	三、	六、		六、	三、		一、	

馬一日飼料投與ノ分量ハ二十一年中ノ調ニ依レハ冬夏ノ二季ニ區別シ之ヲ與フ
ルハ左ノ如シ

馬冬季飼養分量二十一年一月中

種 類	大 麥	燕 麥	玉 蜀 黍	大 豆	鹽	乾 草
洋 種 牝 牡	四升五合		五 合	二 合	五 勺	五 貫 目
全 牝 牡	二升五合	二 升	全	全	六 勺	全
雜 種 牝 牡	全	一 升	全		全	全
農 馬	一升五合	三升五合	一 升		五 勺	六 貫 目
二 歲 未 滿	二升五合		五 合		四 勺	三 貫 目

馬夏季飼養分量二十一年七月中

種 類	大 麥	大 豆	穀	摺	乾 草
洋 種 牝 牡	四升一合	三 合	三 合	五 勺	五 貫 目
全 牝 牡	三升一合	全	全	六 勺	全
雜 種 牝 牡	二升九合	五 合	全	全	全
農 馬	四升五合	全	五 合	五 勺	六 貫 目
二 歲 未 滿	二升一合	三 合	三 合	四 勺	三 貫 目

備考

本表ノ如ク定ムルト雖凡其景況ニ應シ時々穀類ヲ増減ス

前表冬季夏季ノ飼料ヲ平均シ二十一年中實際飼與セシ物價ニ照シ費額ヲ算出スルハ左ノ如シ

馬飼料費

種 類	一日一頭飼料費	一ヶ月一頭飼料費	一ケ年一頭飼料費
洋 種 牝 牡	拾二錢四厘三毛三	三圓七拾二錢九厘九毛	四拾五圓三拾八錢四毛五
洋 種 牝 牡	拾壹錢四厘四毛六	三圓四拾三錢三厘八毛	四拾壹圓七拾七錢七厘九毛
雜 種 牝 牡	拾二錢二厘四毛六	三圓六拾七錢三厘八毛	四拾四圓六拾九錢七厘九毛
農 馬	拾四錢三厘八毛六	四圓三拾壹錢五毛八	五拾二圓五拾錢八厘九毛
二 歲 未 滿	七錢壹厘八毛七	二圓拾五錢六厘壹毛	二拾六圓二拾三錢 二厘五毛五

備考

飼料品ノ相場ハ燕麥一石ニ付金二圓大豆一石ニ付金三圓三拾三錢三厘トス
此他飼料品ノ相場ハ綿羊飼料費ノ價格ト同一ナリトス

育馬ニ關スル官吏俸給雇給器具家屋飼料費等一切ノ失費ヲ合算シ壹頭ニ要スル費額ヲ積算スルトキハ左表ノ如シ

馬寮養費

馬	一日失費	一ヶ月失費	一ヶ年失費
一頭	拾三錢二厘二毛八	三圓九十六錢八厘四毛	四拾八圓二拾八錢二厘二毛

明治二十一年九月三十日現在馬ノ頭數左ノ如シ

馬頭數

種類	牡	牝	小計
サラブレッド種	一〇、	三〇、	四〇、
ウロツター種	一三、	七、	二〇、
パーチエロン種	一、	三、	四、
クライデス デール種	一、	一、	二、
洋種	一、	二、	三、

育牛之部

牛ハ馬ト同シク最初牧畜ヲ專ラトシ後チ耕耘ヲ主トセシヨリ本期中洋種等ヲ購入セシテ更ニナク農商務省ヨリノ返付又ハ岩瀬御料地ヨリ譲受ケ牽入ヲ爲シタルニ止マレリ其種類左ノ如シ

種類	計	計	計
三回雜種	二、	八、	一〇、
二回雜種	四〇、	六九、	一〇九、
一回半雜種	二、	一、	三、
一回雜種	四〇、	一〇九、	一四九、
五分雜種	一、		一、
二分五厘雜種		三、	三、
ミユール種	九、	五、	一四、
内國種	六、	九〇、	九六、
通計	一二八、	三二九、	四五七、

牛率入

年次	二十年										種類	
	雜種		短角種		デボン種		ゼルシー種		アシヤ種			
頭數	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
總代價												
平均一頭代價												
摘	御料局岩瀨御料地ヨリ率入											
要	附 農商務省ヨリ返											
通計	五種		種									
頭數	二、	四、	九、	一、	二、	二、	一、	二、	一、	二、	二、	九、
總代價												
平均一頭代價												
種	五種		種									
頭數	二、	九、	二、	九、	二、	二、	一、	二、	一、	二、	二、	九、
總代價												
平均一頭代價												
種	五種		種									
頭數	二、	九、	二、	九、	二、	二、	一、	二、	一、	二、	二、	九、
總代價												
平均一頭代價												
種	五種		種									
頭數	二、	九、	二、	九、	二、	二、	一、	二、	一、	二、	二、	九、
總代價												
平均一頭代價												

牛ノ生産ハ明治十八年六月以降二十一年九月ヨ至ル四ケ年間四拾三頭其種類ヲ

區別スルキハ左ノ如シ
牛生産

年次	十八年		十九年		二十年		二十一年		合計	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
洋種改良種	三、	三、	四、	二、	四、	三、	四、	三、	一、	六、
三回雜種										
小										
計	六、	八、	五、	五、	五、	五、	九、	五、	二一、	二二、

牛ノ貸與ハ本期中十八十九兩年間ニシテ頭數三十四頭其種類ヲ區分スルキハ左ノ如シ